



PUBLIC (公開)

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム
ドキュメントバージョン: 4.3 Support Package 4 – 2023-12-07

Integration Option for Microsoft SharePoint Software インストールと管理ガイド

目次

1	ドキュメント履歴.....	4
2	このガイドの対象読者.....	5
3	Integration Option for SharePoint software の概要.....	6
4	計画.....	7
4.1	インストールに必要なシステム.....	7
4.2	インストールの手順.....	8
4.3	インストール方法.....	9
5	インストール.....	10
5.1	応答ファイル.....	10
	サンプル応答ファイル.....	11
5.2	ウィザードによるインストール.....	11
	インストールウィザードでの応答ファイルの作成.....	13
5.3	サイレントインストール.....	13
	スイッチパラメータ.....	13
	インストールオプションパラメータ.....	15
5.4	自動モードインストール.....	17
5.5	インストールの検証.....	18
5.6	ONE Installer を使用する.....	19
6	SharePoint 設定.....	20
6.1	SharePoint web.config テンプレート設定ファイル.....	20
	web.config ファイルの編集可能なタグ.....	21
	web.config ファイルのロギングとトレース.....	25
	SharePoint サイトの追加作成.....	27
	SharePoint サイトの SSL の有効化.....	30
6.2	SharePoint サイトのページへの Web パーツの追加.....	31
	Web パーツの接続.....	31
	空白サイトへの IOMS - 検索結果の表示 Web パーツの追加.....	32
6.3	IIS for AnalyticalReporting での匿名アクセスの有効化.....	32
6.4	SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint 2010 のホストヘッダのインストール.....	33
6.5	SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint 2010 のサーバファームのインストール.....	35
	サーバファームへのサーバの追加.....	36
6.6	IIS 6 での SSL の設定.....	37
6.7	IIS 8 または 7.5 での SSL の設定.....	38

6.8	リバースプロキシ向けの ISA Server 2006 の設定.	40
	SharePoint ベースアプリケーション用のリバースプロキシの設定.	41
	既存の Web アプリケーションの拡張.	42
	拡張 Web アプリケーション用のリバースプロキシの設定.	42
6.9	LDAP 認証の設定.	43
	拡張 Web アプリケーション用の LDAP の設定.	44
	拡張 Web アプリケーションへのユーザおよびグループの追加.	45
	LDAP ユーザとしての拡張 Web アプリケーションへのログオン.	46
6.10	Windows AD 認証.	46
	Kerberos を使用する Windows AD の設定.	47
	Kerberos SSO を使用する Windows AD の設定.	48
	NTLM を使用する Windows AD の設定.	49
	NTLM SSO を使用する Windows AD の設定.	49
	SSO を使用した Windows AD のトラブルシューティング.	50
6.11	セキュリティとシングルサインオン.	51
	SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint 2010 の要求に基づく認証の設定.	52
	SharePoint 2013 に対するポート 1250 での Web アプリケーションの作成.	53
7	Integration option for SharePoint software デプロイメント.	55
7.1	言語の追加または削除.	55
7.2	追加サイトへのソフトウェアのデプロイメント.	55
7.3	(オプション) Web Intelligence Web サービスのサイトへの手動デプロイメント.	56
	(オプション) サイトからの Web Intelligence Web サービスの削除.	57
7.4	Integration option for SharePoint software の修復.	57
7.5	Integration option for SharePoint software の削除.	58
8	BI プラットフォーム設定.	59
8.1	ユーザおよびユーザグループへの表示権限の割り当て.	59
8.2	(オプション) レポート処理用の RAS の指定.	59
8.3	(オプション) パラメータプロンプトの値の指定.	60
8.4	OpenDocument リンクを使用したドキュメントのオープン.	60
9	スケジュールおよび拡大/縮小に関するベストプラクティス.	61
9.1	レポートのエクスポート.	61
9.2	レポートに対するデータベースログオン情報.	61
9.3	ユーザに必要なレポート表示権限.	62
10	Crystal レポートのベストプラクティス.	63

1 ドキュメント履歴

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.3	2020 年 6 月	<p>Integration Option for Microsoft SharePoint Content の場合、特定の Web パーツが非推奨になっています。次のビューアの使用はサポートされていません。</p> <ul style="list-style-type: none">• Crystal レポートビューア• Xcelsius ビューア Web パーツ• アナリティカルレポートビューア

2 このガイドの対象読者

この情報は、ベース管理者、Microsoft SharePoint 管理者および SAP 管理者を対象としています。

このガイドでは、SAP BusinessObjects Integration option for Microsoft SharePoint software の Business Intelligence (BI) プラットフォームデプロイメントでのインストールと設定方法について説明します。

Integration option for Microsoft SharePoint をインストールする管理者の要件は、次のとおりです。

- SharePoint 2016、SharePoint Server 2013、SharePoint Server 2010、SharePoint Foundation 2010、Windows SharePoint Services、および Office SharePoint Portal Server 2007 の熟知
- SAP Crystal Reports および BI プラットフォームの実践的な知識

インストールおよび設定後の Integration option for SharePoint software の使用方法については、SAP BusinessObjects Integration Option for SharePoint software スタートアップガイドを参照してください。 .

3 Integration Option for SharePoint software の概要

Integration Option for SharePoint software を使用すると、Business Intelligence (BI) ソリューションと SharePoint ソフトウェアを連携させることができます。この統合オプションは、フリーダウンロードとして使用できます。

管理者が Integration option for SharePoint をサイトにデプロイしてから、チームサイトテンプレートを使用して BI コンテンツにアクセスするための専用サイトを作成します。

Integration option for SharePoint には SAP BusinessObjects Web パーツのギャラリーが用意されており、管理権限を持つユーザは、SharePoint サイトの Web パーツを設定できます。このため、すべての SharePoint サイトから、BI コンテンツオブジェクト (Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、パブリケーション、Xcelsius レポート、Advanced Analysis ドキュメント、PDF ドキュメント、Microsoft Excel スプレッドシート、Microsoft Word ファイル、プログラムファイル、オブジェクトパッケージ、その他のレポートなど) にアクセスしたり、これらを管理したりできます。

非推奨の Web パーツで利用可能な既存のサイトがある場合、想定される動作は以下のとおりです。

1. 非推奨の Web パーツは、既存のサイト (BI 4.2 から BI 4.3 にアップグレードする前に登録されたサイト) の Web パーツギャラリーに一覧表示されます。非推奨の Web パーツをサイトで使用すると、エラー/例外が発生します。
2. 既存のサイトに非推奨の Web パーツがある場合、アップグレード後にその Web パーツは機能せず、サイトが開かれたときにエラーがスローされます。

BI 4.2 から BI 4.3 へのアップグレード後に、新しいサイトを登録することをお奨めします。

① 注記

これで、Microsoft Sharepoint (IOMS) ドキュメントビューアの統合で任意のレポートにアクセスできるようになります。

Integration Option for Microsoft SharePoint の場合、特定のコンテンツ固有の Web パーツが非推奨になっています。非推奨のビューアは次のとおりです。

- IOMS - アナリティカルレポートビューア
- IOMS - Crystal レポートビューア
- IOMS - Xcelsius ビューア

4 計画

4.1 インストールに必要なシステム

Integration option for SharePoint software をインストールする前に、SharePoint サーバがシステム要件を満たしており、かつ SharePoint のインストールが要件を満たしていることを確認します。

SharePoint サーバが、以下のシステム要件に加えてすべての SharePoint 要件を満たしている必要があります。

システム要件	SharePoint 2016 の要件	SharePoint 2013 の要件	SharePoint Server 2010 の要件	Microsoft Office SharePoint Server (MOSS) 2007 の要件
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2012 または Windows Server 2016、Microsoft Internet Information Services (IIS) 8	<ul style="list-style-type: none">Windows Server 2012、Microsoft Internet Information Services (IIS) 8Windows 2008 Server R2 SP1、IIS 7.5	Windows 2008	64 ビット
プロセッサ	2 デュアルコア 2.8 GHz	2 デュアルコア 2.8 GHz	2 デュアルコア 2.8 GHz	2 デュアルコア 2.8 GHz
RAM	最小値: 8 GB 推奨: 16 GB	8 GB	8 GB	最小値: 3 GB 推奨: 4 GB
最小ディスク空き容量	1.3 GB	1.3 GB	1.3 GB	1.3 GB
すべての言語パックのインストールに必要な空き容量	1.4 GB	1.4 GB	1.4 GB	1.4 GB

① 注記

SharePoint 2016 および SharePoint 2013 では、IIS 8 (Windows Server 2012 のデフォルトバージョン) および IIS 7.5 (Windows 2008 Server R2 SP1 のデフォルトバージョン) がサポートされています。

SharePoint のインストールが以下の要件を満たしている必要があります。

前提条件	要件
Business Intelligence (BI) プラットフォームバージョンがインストールされて設定済み	4.1 以上

前提条件	要件
SharePoint がインストールされて設定済み	SharePoint 2016、SharePoint 2013、SharePoint Server 2010、SharePoint Foundation 2010、または Office SharePoint Server 2007
管理者アクセス権限	必要に応じて許可
Microsoft .NET バージョンがインストール済み	3.5 以上
システムの再起動	抑制されている

前提条件を満たさずに、Integration option for SharePoint をインストールしようとする、[\[要件の確認\]](#) ダイアログボックスが表示され、どの前提条件を満たす必要があるかが示されます。インストールを続行するには、すべての要件を満たしている必要があります。

このドキュメントには、BI プラットフォームまたは SharePoint の詳細なシステム要件は含まれていません。詳細な要件については、SAP Support Portal の *Supported Platforms* ドキュメントを参照してください。サポートされているオペレーティングシステムおよび詳細なハードウェア要件の一覧については、*SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0 Platform Availability Matrix* ドキュメントを参照してください。デプロイメントに関する追加情報については、*Integration Option for SharePoint Software Release Notes* を参照してください。

4.2 インストールの手順

Integration option for SharePoint software のインストールには、インストールの実行およびソフトウェアの設定という 2 つの一般的な手順が必要です。

インストールを開始すると、インストールプログラムによって、Central Management Server (CMS) を介して Business Intelligence (BI) プラットフォームコンテンツにアクセスして管理するために使用する Web パーツパッケージがインストールされます。Web パーツパッケージは、BI プラットフォームフレームワーク内のインテリジェンス層の一部です。

インストールでは、次の Web パーツが SharePoint デプロイメントの Home Gallery フォルダに追加されます。

- IOMS - コンテンツエクスプローラ
- IOMS - ドキュメントビューア
- IOMS - アドバイズメント
- IOMS 最近の表示
- IOMS 最近の検索
- IOMS - 検索結果の表示

インストールでは、[\[スタート\]](#) メニューにアイコンまたはショートカットは追加されません。

BI プラットフォームアーキテクチャの詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

4.3 インストール方法

Integration option for SharePoint software は、インストールウィザードを使用して、またはコマンドラインでインストールできます。

インストールオプションの指定を表示しない場合は、インストールウィザードを使用します。

コマンドラインを使用して、サイレントインストールまたは自動モードインストールのいずれかを実行します。両方のタイプのインストールで、応答ファイルを使用します。サイレントインストールでは、コマンドラインまたは応答ファイルでスイッチパラメータとインストールオプションパラメータを指定します (また、サイレントインストールコマンドをスクリプトで使用することも可能です)。自動モードインストールでは、コマンドラインまたは応答ファイルでインストールオプションのパラメータを指定します。

5 インストール

5.1 応答ファイル

応答ファイルとは、インストールオプションをキー値形式で保存する ASCII テキストファイルです。テキストエディタで応答ファイルを変更できます。

サイレントインストールでは応答ファイルおよびコマンドラインを使用します。応答ファイルではスイッチパラメータおよびインストールオプションのパラメータを指定します。たとえば、クラスタを設定したり、標準化されたオプションで開発環境またはテスト環境を構築したりする場合に応答ファイルを使用できます。

応答ファイル内のインストールオプションを上書きする場合は、コマンドラインでオプションを入力します。コマンドラインで入力されるインストールオプションは、応答ファイルに指定されたオプションよりも優先されます。インストールオプションには、以下の 3 つのレベルの優先順位があります。

1. コマンドラインで入力されるオプションは、オプションの応答ファイルの値とデフォルト値を上書きします。
2. 応答ファイルに設定されたオプションは、オプションのデフォルト値を上書きします。応答ファイルの値は、コマンドラインに入力されるオプションがない場合に使用されます。
3. オプションのデフォルト値は、コマンドラインで入力されるオプションがない場合、または応答ファイルに設定されているオプションがない場合に使用されます。

たとえば、以下のコマンドは C:¥response.ini ファイルからインストールオプションを読み込みますが、インストール先フォルダを指定した応答ファイルの値を上書きします。

```
setup.exe
        -r
        C:¥response.ini
        <InstallDir>="C:¥Program Files (x86)¥SAP BusinessObjects¥SAP
BusinessObjects Enterprise XI
        4.0¥"
```

応答ファイルの読み込み中に予期せぬ条件が発生した場合、メッセージがインストールログファイルに書き込まれ、インストールプログラムは停止します。インストールアクティビティ、警告メッセージ、およびエラーメッセージが <BOEInstallDir>¥InstallData¥logs¥<date>¥InstallDU<component>.log フォルダのインストールログファイルに書き込まれます。

→ ヒント

インストールプログラムの停止時に、<BOEInstallDir> フォルダが存在しない場合、システムの TEMP 環境変数で指定された一時フォルダ内のタイムスタンプフォルダで setupengine.log という名前のファイルを探してください。

関連情報

[インストールの検証 \[18 ページ\]](#)

5.1.1 サンプル応答ファイル

```
### Installation directory installdir=C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\
#####
### #property.InstalledState.description# installedstate=true
### The URL to the Web Server that hosts Java InfoView (e.g., <http://
InfoviewServer/>)
javaopendocinfo= [http://<YourEnterpriseServer>:8080/BOE]
### Remote CMS administrator name remotecmsadminname=Administrator
### Remote CMS administrator password remotecmsadminpassword=Password1
### Remote CMS name remotecmsname=<YourEnterpriseServer>
### Remote CMS port remotecmsport=6400
### Selected iPoint Virtual Server selectedipointvserver=http://
<YourIpointServer>:32843 http://<YourIpointServer>:43652 http://
<YourIpointServer>:80 http://<YourIpointServer>:80
### #property.SelectedIPointVServerAppPool.description#
selectedipointvserverappool="SharePoint Web Services" "SharePoint Web Services
Root" "SharePoint Central Administration v4" "SharePoint Central Administration
v4" "Default Web Site" "DefaultAppPool" "SharePoint - 80" "SharePoint - 80"
### #property.SelectedIPointVServerInetPort.description#
selectedipointvserverinetport=%SystemDrive%
¥inetpub¥wwwroot¥wss¥VirtualDirectories¥32843 %SystemDrive%
¥inetpub¥wwwroot¥wss¥VirtualDirectories¥43652 %SystemDrive%
¥inetpub¥wwwroot¥wss¥VirtualDirectories¥80 %SystemDrive%
¥inetpub¥wwwroot¥wss¥VirtualDirectories¥80
### Selected iPoint Virtual Server Meta Number
selectedipointvservermetanum=2 672319142 1 1768581603 ### Selected iPoint
Virtual Server selectedipointvservername="SharePoint Web Services" "SharePoint
Central Administration v4" "Default Web Site" "SharePoint - 80"
### #property.SelectedLanguagePack.description#
selectedlanguagepacks=en
### UI Setup Language setupuilanguage=en
### Available features
### -----
### root
### IPoint.IPointRoot features=IPoint.IPointRoot,root
```

5.2 ウィザードによるインストール

インストールウィザードでは、パラメータとインストールオプションを入力するプロンプトを表示します。

ウィザードを開始する前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. SAP サポートポータルの [\[ダウンロード\]](#) 領域で、IPOINT03_0-20008227.exe を探してダウンロードします。
 2. setup.exe ファイルをダブルクリックします。
 3. プロンプトが表示されたら、インストールウィザードで [\[実行\]](#) をクリックします。
 4. インストール言語を選択し、[\[OK\]](#) をクリックします。
[要件の確認](#)ダイアログボックスが表示され、満たされていない要件が一覧にされます。要件が満たされていない場合は、その要件をクリックし、満たす方法を確認できます。
 5. [次へ](#)をクリックします。

6. [ようこそ] ページで [\[次へ\]](#) をクリックします。
7. [\[使用許諾契約\]](#) ページで、[\[使用許諾契約に同意する\]](#) を選択し、[\[次へ\]](#) をクリックします。
8. [言語パックの選択](#) ページで、インストールする 1 つ以上の言語を選択するか、使用可能なすべての言語パックをインストールする場合は [すべての言語](#) を選択して、[次へ](#) をクリックします。

オペレーティングシステムの言語は、自動的に選択されます。英語の言語サポートは、別の言語で問題が検出された場合にデフォルトの言語となるため、削除することはできません。組織にインストールする言語について十分検討します。後日、組織に別の言語パックが必要となった場合、Integration option for SharePoint software のアンインストールや再インストールを行うことなく、言語を追加したり、削除したりすることができます。
9. [インストールフォルダの設定](#) ページで、ソフトウェアをインストールするフォルダのチェックボックスを選択し、[次へ](#) をクリックします。
10. [導入オプション](#) ページで、Integration option for SharePoint をデプロイするサーバ URL を選択し、[次へ](#) をクリックします。

たとえば、サーバの URL は、`http://<SharepointServerName>/` となります。

同じマシンで (プロトコルが異なる場合でも) 同じ URL を使用して複数の SharePoint サイトを設定しないでください。URL を入力することはできますが、インストールは失敗します。たとえば、"http://my_site" という SharePoint サイトと "https://my_site" というサイト (同じ名前だが、暗号化されているサイト) を 1 台のマシンで作成しないでください。
11. (オプション) SharePoint 2016 または SharePoint 2013 のサイトで Web Intelligence ドキュメントを表示する必要がある場合、[\[Web Intelligence ゲートウェイ設定\]](#) ページで、"WebIntelligence Gateway" という IIS サイトを作成するポート番号を入力し、[\[次へ\]](#) をクリックします。

このポートで作成された IIS サイトは、SharePoint 2016 および SharePoint 2013 で Web Intelligence ドキュメントを表示するために必要です。
12. [既存の CMS デプロイメント情報](#) ページで、BI プラットフォームの Central Management Server (CMS) 名、CMS ポート、および CMS ユーザ認証情報を入力し、[次へ](#) をクリックします。
13. [\[設定\]](#) ページで、次のいずれかの操作を実行します。
 - 組織が SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP ドキュメントを表示する必要がある場合、[はい、BI ラUNCHパッドでオブジェクトを表示します](#) を選択し、BI ラUNCHパッドをホストする Web サーバの URL を入力し、[次へ](#) をクリックします。

たとえば、Web サーバの URL は、`http://<ServerName>:<PortNumber>/BOE` となります。
 - 手動のオブジェクト表示をセットアップする場合、[いいえ、手動でオブジェクトの表示をセットアップします](#) を選択し、[次へ](#) をクリックします。
14. [\[インストールの開始\]](#) ページで、[\[次へ\]](#) をクリックしてインストールを開始します。
15. ウィザードでソフトウェアのインストールを完了したら、[\[完了\]](#) をクリックします。

インストールの完了後、ソフトウェアを設定できます。

関連情報

[インストールの検証 \[18 ページ\]](#)

5.2.1 インストールウィザードでの応答ファイルの作成

インストールウィザードで応答ファイルを作成する場合は、ウィザードに入力したパスワードがプレーンテキストの応答ファイルに書き込まれます。

たとえば、次のコマンドでは、C:\¥response.ini に応答ファイルを作成します。

```
setup.exe -w C:\¥response.ini
```

-w <response-file> パラメータを使用してインストールプログラムを実行し、インストールウィザードを使用してインストールオプションを選択します。

ウィザードが完了すると、インストールプログラムが閉じられ、応答ファイルが作成されます。

5.3 サイレントインストール

スイッチパラメータおよびインストールオプションのパラメータを使用して、コマンドラインからサイレントインストールを実行します。パラメータは、コマンドラインまたは応答ファイルで指定できます。

このタイプのインストールは、特に、複数のインストールを実行する必要がある場合やシステム上のマシンでユーザが実行中の作業を中断しないようにする場合に便利です。また、サイレントインストールコマンドをスクリプトで使用することも可能です。たとえば、組織でソフトウェアをインストールするためのスクリプトを使用している場合、サイレントインストールコマンドをそのスクリプトに追加できます。

インストールの完了後、ソフトウェアを設定できます。

関連情報

[応答ファイル \[10 ページ\]](#)

[インストールの検証 \[18 ページ\]](#)

5.3.1 スイッチパラメータ

応答ファイルを使用する代わりに、スイッチパラメータを使用してサイレントインストールを設定できます。

スイッチパラメータ	説明	例
-w <FileName>	インストールプログラムで選択されたオプションを一覧表示する応答ファイルを <FileName> に書き込みます。	setup.exe -w "C:\¥response.ini"

スイッチパラメータ	説明	例
-r <FileName>	<FileName> というファイル名の応答ファイルからインストールオプションを読み込みます。	setup.exe -r "C:\¥response.ini"
-q	<p>コンソール出力やプロンプトなしでインストールプログラムを自動モードで実行します。問題が発生した場合、インストールプログラムはインストールログファイルにメッセージを書き込んでから終了します。</p> <p>このパラメータは必ず -r <FileName> スイッチパラメータと組み合わせて使用します。</p>	setup.exe -q -r "C:\¥response.ini"

5.3.2 インストールオプションパラメータ

パラメータ	説明
SetupUILanguage	<p>インストールプログラムで表示される言語。 <code> を以下の言語コードのいずれかに置き換えます。</p> <ul style="list-style-type: none">• チェコ語: CS• デンマーク語: DA• オランダ語: NL• 英語: EN• フィンランド語: FI• フランス語: FR• ドイツ語: DE• ハンガリー語: HU• イタリア語: IT• 日本語: JA• 韓国語: KO• ノルウェー語 (ブークモール): NB• ポーランド語: PL• ポルトガル語: PT• ロシア語: RU• 簡体字中国語: zh_CN• スロバキア語: SK• スペイン語: ES• スウェーデン語: SV• タイ語: TH• 繁体字中国語: zh_TW• トルコ語: TR <p>このパラメータを入力しない場合、プロンプトなしインストールのパラメータを指定していても、インストールの開始時に言語選択ページが表示されます。</p>
InstallDir	インストールプログラムを保存するフォルダ
RemoteCMSPort	リモート Central Management Server (CMS) のポート番号
RemoteCMSAdmin	リモート CMS 管理用のユーザアカウント
SelectedIPointVServer	デプロイ先の SharePoint サイト。たとえば、http://<site>:<port> や http://<site1>:<port> など

パラメータ	説明
SelectedLanguagePacks	<p>Integration Option for SharePoint software で表示される言語。 <code> を以下の言語コードのいずれかに置き換えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • チェコ語: CS • デンマーク語: DA • オランダ語: NL • 英語: EN • フランス語: FR • ドイツ語: DE • ハンガリー語: HU • イタリア語: IT • 日本語: JA • 韓国語: KO • ノルウェー語 (ブークモール): NB • ポーランド語: PL • ポルトガル語: PT • ロシア語: RU • 簡体字中国語: zh_CN • スロバキア語: SK • スペイン語: ES • スウェーデン語: SV • タイ語: TH • 繁体字中国語: zh_TW • トルコ語: TR <p>EN (英語) の言語パックはデフォルトで選択されています。</p> <p>2 つ以上の言語をインストールする場合、セミコロンでコードを区切り、スペースを使用せずに、1 組の引用符ですべてのコードを囲みます。</p> <p>以下の例では、英語、日本語、簡体字中国語、およびタイ語の言語サポートがインストールされます。</p> <p>SelectedLanguagePacks="en; ja; zh_CN; th"</p>
SelectedIPointVServerAppPool	<p>インターネットインフォメーションサービス (IIS) の仮想ディレクトリの作成先となり、サイトの仮想ディレクトリと関連付けるアプリケーションプールに作成される SharePoint サイトの名前</p>

パラメータ	説明
JavaOpenDocInfo	(オプション) Business Intelligence (BI) ラウンチパッドの URL。たとえば、http:// <YourEnterpriseServer>:8080/BOE など この URL が指定されている場合は、OpenDocument リンクが自動的に設定されます。
SelectedIPointVServerInetPort	SharePoint サイトの仮想フォルダの場所
SelectedIPointVServerMetaNum	デプロイされた SharePoint サイトのメタベース ID
SelectedIPointVServerName	SharePoint サイトの仮想フォルダの場所

5.4 自動モードインストール

-q スイッチを使用してコマンドラインから自動モードインストールを実行します。

この方法では、インストールオプションのパラメータを指定するプロンプトは表示されません。オプションをコマンドライン、または応答ファイルで入力する必要があります。コマンドラインで入力されない、または応答ファイルで指定されないオプションは、デフォルト値に設定されます。

-q スイッチを指定すると、インストールウィザードをスキップし、ユーザの入力やコンソール出力なしでインストールを実行します。たとえば、以下のコマンドでは、インストール先のフォルダ以外は、すべてのインストールオプションでデフォルト値を使用します。

```
setup.exe
-q InstallDir="C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP
BusinessObjects Enterprise XI 4.0\"
```

インストール先のフォルダは、デフォルトの C:\Program Files (X86)\SAP BusinessObjects フォルダではなく、C:\SAP\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\ に設定されていることに注意してください。

予期せぬ条件が発生した場合、メッセージが

<BOEInstallDir>\InstallData\logs\<date>\InstallDU<component>.log フォルダのインストールログファイルに書き込まれ、インストールプログラムは終了します。すべてのインストールアクティビティ、警告メッセージ、およびエラーメッセージがログファイルに書き込まれます。

インストールプログラムの終了時に <BoeInstallDir> フォルダが作成されない場合、システムの TEMP 環境変数で指定された一時フォルダ内のタイムスタンプ付きのフォルダで setupengine.log という名前のファイルを検索してください。

インストールの完了後、ソフトウェアを設定できます。

例

```
setup.exe -q SetupUILanguage="en" InstallDir="c:\¥IPoint"
SelectedLanguagePacks="zh_cn;zh_tw;en;hu;da;es;it;ko;de;nl;nb;pl;pt;ru;sk;th;tr;f
i;fr;cs;sv;ja" JavaOpenDocInfo="http://<YourEnterpriseServer>:8080/BOE"
SelectedIpointVServer="http://<YourIpointServer>:2662"
SelectedIpointVServerAppPool= "¥¥¥"SharePoint Web Services¥¥¥" ¥¥¥"SharePoint
Web Services Root¥¥¥" ¥¥¥"SharePoint Central Administration v4¥¥¥" ¥¥
¥"SharePoint Central Administration v4¥¥¥" ¥¥¥"Default Web Site¥¥¥" ¥¥
¥"DefaultAppPool¥¥¥" ¥¥¥"SharePoint - 80¥¥¥" ¥¥¥"SharePoint - 80¥¥¥"
SelectedIpointVServerMetaNum="1934304204"
SelectedIpointVServerInetPort="C:¥inetpub¥wwwroot¥wss¥VirtualDirectories¥2662 "
SelectedIpointVServerName="¥¥¥"SharePoint Central Administration v4¥¥¥"
RemoteCMSName="<YourEnterpriseServer>" cmsport=6400
RemoteCMSAdminName="administrator" RemoteCMSAdminPassword="<CmsPassword>"
features="IPoint.IPointRoot,root"remote
```

関連情報

[応答ファイル \[10 ページ\]](#)

[インストールの検証 \[18 ページ\]](#)

5.5 インストールの検証

web.config ファイルに、SharePoint サイトで有効化する適切な SAP BusinessObjects 機能が含まれているかどうかを検証します。

1. web.config テンプレート設定ファイルで、Business Intelligence (BI) プラットフォームのセキュリティ値が正しいことを確認します。
値が正しくない場合は、ユーザが SharePoint サイトの BI コンテンツにアクセスしようとすると、以下のメッセージが表示されます。

サーバ名の BusinessObjects Enterprise インフラストラクチャにアクセスしてユーザ名を取得できません。 インフラストラクチャはアクセスが許可されていない可能性があります。または、authenticationmode による自動サインオンを使ってアクセスする権限がユーザに付与されていません。 詳細はレポートिंगの管理者に連絡してください。
2. web.config ファイルで、BI ラウンチパッドの URL と Central Management Server (CMS) の URL が正しいことを確認します。
3. 以下の Web パーツが Web パーツギャラリーで使用可能であることを確認します。
 - IOMS - アドバタイズメント
 - IOMS - コンテンツエクスプローラ
 - IOMS 最近の検索
 - IOMS 最近の表示
 - IOMS - 検索結果の表示
4. SAP BusinessObjects のサイト機能が SharePoint サイトで有効化されていることを確認します。

関連情報

[応答ファイル \[10 ページ\]](#)

[SharePoint サイトでの SAP BusinessObjects 機能の有効化 \[29 ページ\]](#)

5.6 ONE Installer を使用する

ONE Installer は、サービスパッケージまたはパッチのフレッシュインストール、パッチからパッチへの更新、サービスパッケージからパッチへの更新などの複数の BI インストールシナリオをサポートする単一のインストールパッケージです。

SAP BusinessObjects BI プラットフォームを使用していない場合は、BI リリースの最新の利用可能なサポートパッケージまたはパッチバージョンのフレッシュインストールに ONE Installer パッケージを使用できます。

ONE Installer の詳細については、*Business Intelligence Platform* インストールガイド (UNIX 版) と *Business Intelligence Platform* インストールガイド (Windows 版) を参照してください。

6 SharePoint 設定

初めて Integration option for SharePoint software をインストールするときは、SharePoint 内でオプションを設定または更新して、インストール環境を最適化する必要があります。

6.1 SharePoint web.config テンプレート設定ファイル

Web サイトの作成時に、SharePoint では、設定パラメータおよび選択した値が格納された web.config テンプレートファイルが自動的に作成されます。web.config ファイルを使用して、ロギングおよびトレースの有効化、SharePoint サイトの SSL の有効化、拡張 Web アプリケーションに対するリバースプロキシまたは LDAP の設定などを行います。

Integration option for SharePoint software インストールプログラムでは、元の web.config ファイルのバックアップコピー (backup web.config) をインストールフォルダに作成し、インストール時に入力する Business Intelligence (BI) プラットフォームのシステム情報に基づいて web.config ファイルを更新します。

インストール後に BI プラットフォームのシステム情報を変更する場合は、web.config ファイルの同じ情報を更新する必要があります。たとえば、BI プラットフォーム Central Management Server (CMS) の場所を変更する場合は、web.config ファイルの BusinessObjects Enterprise Central Management Server キー値を更新し、CMS の場所と一致させる必要があります。

デフォルトでは、SharePoint サイトはポート 80 でホストされています。SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010 の web.config ファイルは Microsoft SharePoint 2007 の web.config ファイルとは異なるサーバ上に管理されますが、Integration Option for SharePoint software インストールによって追加されるタグは SharePoint のすべてのバージョンと同様です。

コンテンツオブジェクト	web.config ファイルの場所
Web Intelligence ドキュメントを含む、SharePoint 2010 以下のすべてのコンテンツ	C:\inetpub\wwwroot\wss\VirtualDirectories\80 (SharePoint Web サーバの標準ルートスペース)
SharePoint 2016 または SharePoint 2013 の Web Intelligence ドキュメント	C:\inetpub\wwwroot\WebIntelligenceGateway
(Web Intelligence Web サービスをサイトにデプロイする必要があります)	

一般的な管理タスクについては、SharePoint のドキュメントを参照してください。

6.1.1 web.config ファイルの編集可能なタグ

管理者は、web.config テンプレート設定ファイルで次のタグを編集して、Integration option for SharePoint software の機能の動作について定義することができます。

ドキュメントビューアでは次のタグを編集できます。

```
<!-- Voyager viewer Url %id%, %type%, %lang% and %token% are substitution
variables -->
<add key="BusinessObjects Enterprise SharePoint InfoView Voyager Viewer Url"
value="http://<CmsIpAddress>/BOE/BI/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?
sIDType=CUID&iDocID=%id%&token=%token%&lang=%lang%" />
<!-- Document viewer Url %id%, %type%, %lang% and %token% are substitution
variables -->
<add key="BusinessObjects Enterprise SharePoint InfoView Document Viewer Url"
value="/_layouts/OpenDocument/opendoc/openDocument.aspx?
sKind=%type%&sIDType=CUID&iDocID=%id%&token=%token%&lang=%lang%"
/>
<add key="boe.trustguard.enable" value="true" /> </appSettings>
```

Crystal Reports Viewer では次のタグを編集できます。

```
<CrystalReports>
<add key="path.dhtmlViewer" value="/crystalreportviewers" />
</CrystalReports>
```

InfoView App 設定 Web パーツでは次のタグを編集できます。

```
<InfoViewAppSettings>
<!-- ===== -->
<!-- Customizable options -->
<!-- You can specify the default CMS machine name here -->
<!-- Put your CMS name inside <param-value> "/> -->
<!-- eg. -->
<!-- <add key="cms.default</param-name> -->
<!--CrystalMS"/> -->
<add key="cms.default" value="localhost" />
<!-- Choose whether to let the user change the CMS name -->
<!-- If it isn't shown the default System from above will be used -->
<add key="cms.visible" value="false" />
<!-- You can specify the default Authentication types here -->
<!-- secEnterprise, secLDAP, secWinAD, secSAPR3 -->
<add key="authentication.default" value="secEnterprise" />
<!-- Choose whether to let the user change the authentication type -->
<!-- If it isn't shown the default authentication type from above will be used.
If you make it true, you would get the authentication field as a dropdown in the
CMS logon screen of your BusinessObjects site -->
<add key="authentication.visible" value="false" />
<!-- The default home page -->
<add key="homepage.default" value="/listing/Home.aspx" />
<!-- If the locale preference is disabled (only english languages will be used/
allowed) -->
<add key="disable.locale.preference" value="false" />
<!-- Set to false to disable Siteminder single sign on. -->
<add key="siteminder.enabled" value="false" />
<!-- You can specify the siteminder Authentication type here -->
<!-- secLDAP, secWinAD -->
<add key="siteminder.authentication" value="secLDAP" />
<!-- Set to true to enable other single sign on. -->
<add key="vintela.enabled" value="false" />
<add key="sso.enabled" value="false" />
<!-- Set to false to disable logon with token. -->
<add key="logontoken.enabled" value="true" />
```

```

<!-- For turning persistent cookies on/off for the logon page. Defaults to true
if this is not present
-->
<add key="persistentcookies.enabled" value="true" />
<!--
Trusted authentication: set how to retrieve userID
set to "REMOTE_USER" for HttpServletRequest.getRemoteUser()
set to "HTTP_HEADER" for HTTP header
set to "QUERY_STRING" for URL query string
set to "COOKIE" for cookie
set to "WEB_SESSION" for web session
set to "USER_PRINCIPAL" for user principal
set to "VINTELA" for Vintela integration
reset to empty to disable trusted authentication
-->
<add key="trusted.auth.user.retrieval"
value="" />
<!--
Trusted authentication: set Header/URL parameter/Cookie/Session variable name to
retrieve username
No need to set for REMOTE_USER or USER_PRINCIPAL.
-->
<add key="trusted.auth.user.param" value="" />
<!--
Trusted authentication: session variable name
to retrieve the shared secret;
Leave empty if shared secret is not passed from web session
-->
<add key="trusted.auth.shared.secret" value="" />
<!--
Configurable logon service
These 2 configurations allow one to customize the location of the logon service
config.logon.service.context: the service context path. e.g. /InfoViewApp
config.logon.service.url: the service url without context path. e.g. /logon/
logon.do
-->
<add key="config.logon.service.context" value="" />
<add key="config.logon.service.url" value="" />
<!--
Configurable timeout service
These 2 configurations allow one to customize the location of the timeout service
config.timeout.service.context: the service context path. e.g. /InfoViewApp
config.timeout.service.url: the service url without context path. e.g. /logon/
logon.do
-->
<add key="config.timeout.service.context" value="" />
<add key="config.timeout.service.url" value="" />
<!--
cms.clusters: comma separated list of cluster names
Each cluster in the above list requires its own parameter:
param-name = cms.clusters.<clustername> (without the @)
param-value = comma separated list of cms servers
note: Each param-name must match case with the corresponding value in
cms.clusters.
note2: No port needs to be given for a server.
If none is given, then the default port 6400 is assumed.
Alternatively, these parameters may be put in a file called
"clusters.properties" which should
be placed in the WEB-INF/classes directory. The parameters in this file should
be stored
in the normal .properties format, i.e. one "<name>=<value>" pair per line. If
this file
exists, the settings in web.xml will be ignored
entirely.
-->
<!-- EXAMPLE:
<add key="cms.clusters" value="@samplecluster, @samplecluster2,
@samplecluster3"/>

```

```

<add key="cms.clusters.samplecluster" value="cmsone:6400, cmstwo"/>
<add key="cms.clusters.samplecluster2" value="cms3, cms4, cms5"/>
<add key="cms.clusters.samplecluster3" value="aps05"/>
-->
<!-- Sample equivalent clusters.properties file:
cms.clusters=@samplecluster, @samplecluster2, @samplecluster3
cms.clusters.samplecluster=cmsone:6400, cmstwo
cms.clusters.samplecluster2=cms3, cms4, cms5
cms.clusters.samplecluster3=aps05
-->
<!-- proxy.contextpaths: comma separated list of proxies -->
<!-- EXAMPLE:
<add key="proxy.contextpaths" value="/Infoview"/>
OR
<add key="proxy.contextpaths" value="/Marketing,/Sales/infoview,/HR"/>
-->
<add key="proxy.contextpaths" value="" />
<!-- Default window properties when viewing a document in a new window. -->
<!-- Does not override the window properties defined in the plugin files. -->
<add key="window.properties.default"
value="fullscreen=yes,location=no,scrollbars=yes,menubars=no,toolbars=no,resizable=yes"
/>
<!-- location to pick up help files
-->
<add key="customized.help.location" value="" />
<!-- Shared Destination From Field -->
<!-- Enables or Disables the From field when scheduling a object to a
destination.
When the value is set to false the From field will not be rendered and the system
will first attempt to get the email value from the report default, if report
default
is not available it will attempt to get the value from the email address on user
profile of the logged on user and lastly if the user profile email address is not
available it will use the job server default.
-->
<add key="SMTPFrom" value="true" />
<!-- application name -->
<add key="app.name" value="BusinessObjects InfoView" />
<add key="app.name.short" value="InfoView"
/>
<add key="app.name.greeting" value="BusinessObjects" />
<add key="app.supportmygroups" value="false"/>
<add key="app.supportlocreports" value="false" />
<add key="app.ondemandlink" value="http://information.ondemand.com/istore/" />
<add key="app.ondemand.toolbar.button.enabled" value="false" />
<add key="app.ondemand.textlink.enabled" value="true" />
<!-- threshold at which the tree list control will not display all the nodes -->
<!-- instead, a too many children message will be printed -->
<add key="max.tree.children.threshold" value="200" />
<!-- URLs -->
<add key="url.exit" value="" />
<add key="url.error" value="common/error.aspx" />
<!-- Content : ALL schema and non-schema (global) file resources. -->
<!-- Resolution: Resource path resolves to <schemaPath>/
<resourcePathAndFileName>.
-->
<!-- Prefixes : - Values prefixed with the
value given by schema.prefix are resolved to the current schema
-->
<!-- - Values prefixed with the value given
by schema.global.prefix are resolved as non-schema (global) items
-->
<!-- - NONE indicates no prefix
-->
<!-- - If these 2 prefixes are the same
(including both NONE) you essentially have NO global items.
-->

```

```

<!-- - If neither prefix is matched, item is "schema". -->
<!-- - The prefix is not part of the file spec. -->
<!-- Note : Only the default schema is now in use. -->
<!-- Schemas -->
<add key="schema.global.prefix" value="NONE" />
<add key="schema.prefix" value="" />
<!-- context-relative paths -->
<add key="schema.global" value="/res/general" />
<add key="schema.default" value="/res/schema.blue" />
<!-- File resources -->
<add key="img.obj.default" value="ce_generic_object.gif" />
<add key="img.list.heading.separator" value="separator_grey_title_bar.gif" />
<add key="img.list.plus" value="collapse.gif" />
<add key="img.list.minus" value="expand.gif" />
<add key="img.banner.left" value="*IV_left_topbanner.gif" />
<add key="img.banner.right" value="*IV_right_topbanner.gif" />
<add key="img.banner.logo" value="*login_banner_center.gif" />
<!-- Sorting Arrows -->
<add key="img.sort.arrowdown" value="sort_desc.gif" />
<add key="img.sort.arrowup" value="sort_asc.gif" />
<!-- Panel gradient & buttons -->
<add key="img.panel.titlebar" value="*panel_title_bar_fill.gif" />
<add key="img.panel.footerbar" value="*panel_footer_bar_fill.gif" />
<add key="img.panel.new.window" value="*new_window.gif" />
<add key="img.panel.new.window.hover" value="*new_window_hover.gif" />
<add key="img.panel.arrowdown" value="*arrow_down.gif" />
<add key="img.panel.arrowdown.hover" value="*arrow_down_hover.gif" />
<add key="img.panel.arrowleft" value="*arrow_left.gif" />
<add key="img.panel.arrowleft.hover" value="*arrow_left_hover.gif" />
<add key="img.panel.arrowright" value="*arrow_right.gif" />
<add key="img.panel.arrowright.hover" value="*arrow_right_hover.gif" />
<add key="img.panel.arrowup" value="*arrow_up.gif" />
<add key="img.panel.arrowup.hover" value="*arrow_up_hover.gif" />
<add key="img.panel.close" value="*close_panel.gif" />
<add key="img.panel.close.hover" value="*close_panel_hover.gif" />
<add key="img.panel.maximize" value="*maximize.gif" />
<add key="img.panel.maximize.hover" value="*maximize_hover.gif" />
<add key="img.panel.minimize" value="*minimize.gif" />
<add key="img.panel.minimize.hover" value="*minimize_hover.gif" />
<add key="img.panel.restore" value="*restore_down.gif" />
<add key="img.panel.restore.hover" value="*restore_down_hover.gif" />
<add key="img.panel.tearoff" value="*tear_off.gif" />
<add key="img.panel.tearoff.hover" value="*tear_off_hover.gif" />
<!-- Toolbar (22x22) images -->
<add key="img.toolbar.calendar" value="toolbar/calendar.gif" />
<add key="img.toolbar.home" value="toolbar/home.gif" />
<add key="img.toolbar.refresh" value="toolbar/refresh.gif" />
<!-- Error (32x32) image -->
<add key="img.error" value="infoview_error.gif" />
<!-- InfoView homepage icons -->
<add key="img.home.myinfoview" value="MyInfoView.gif" />
<add key="img.home.favefolder" value="favfolder.gif" />
<add key="img.home.folder" value="folder.gif" />
<add key="img.home.help" value="help.gif" />
<add key="img.home.inbox" value="inbox.gif" />
<add key="img.home.preferences" value="preferences_infoview.gif" />
<add key="img.home.ondemand" value="ondemand.gif" />
<!-- JSTL Configuration -->
<add key="localizationContext"
value="com.businessobjects.infoview.ApplicationResources"
/>
<!-- Clustering:
true - SessionCleanupListener will expire an Enterprise Session.
false - SessionCleanupListener will logoff an Enterprise Session.
-->
<add key="distributable" value="true" />
<!-- Uncomment the following context-param if you are using multi-byte
characters with WebLogic

```



```

and you are not using CrystalUTF8InputActionServlet as the action servlet. Please
note that for this to work your application will need to send data to and
receive data from the
client browser in UTF8. -->
<!--
<add key="weblogic.httpd.inputCharset./*"
value="utf-8"/>
-->
<add key="path.rightFrame" value="1" />
</InfoViewAppSettings>
<InfoViewAppActionMapping>
<add key="logon" value="/logon/logon.aspx" />
<add key="logonForm" value="/logon/logon.aspx" />
<add key="logonService" value="/logon/logon.aspx" />
<add key="timeout" value="/logon/logon.aspx" />
<add key="logoff" value="/logon/logoff.aspx" />
<add key="main" value="/listing/main.aspx" />
<add key="appService" value="/common/appService.aspx" />
<add key="help" value="/help/helpredir.aspx" />
</InfoViewAppActionMapping>
</configuration>

```

① 注記

BOE セッションタイムアウト値は、IIS セッションタイムアウト値より大きくする必要があります。

6.1.2 web.config ファイルのロギングとトレース

セキュリティや監視のためにロギングおよびトレースを有効にするには、web.config ファイル内の値を変更します。

開発者のトレースファイルの場合、level タグの value 属性には次のいずれかの値が含まれる可能性があります。

- INFO
- DEBUG
- ERROR

管理者のログファイルの場合、level タグの value 属性には次のいずれかの値が含まれる可能性があります。

- FATAL
- WARN

level タグの value 属性にすべての可能な値 (開発者のトレースファイルと管理者のログファイルの値を含む) を含める場合、level value="ALL"/ に設定します。level タグの value 属性に特定の値を含める場合、各 value 属性を個別に追加します。

ロギングが発生するのは、オブジェクト (パブリケーションの Enterprise 受信者および動的受信者など) のスケジュールオプションの設定、オブジェクトの履歴の表示、オブジェクトへのカテゴリの割り当て、BI 受信ボックスへのオブジェクトの送信など、特定のアクションを実行した場合のみです。

ロギング機能は、ソフトウェアのユニバーサルリポジトリエクスプローラ (URE) のみに実装されています。URE は SAP BusinessObjects サイトの [ユーザアクション](#) ページにビューを実装するために使用されるカスタムコントロールです。

6.1.2.1 web.config ファイルのロギングとトレースの有効化

セキュリティや監視のためにロギングおよびトレースを有効にするには、web.config ファイルの値を変更します。

web.config ファイルでロギングとトレースを有効にする前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
- IIS 6.0 以上

ロギングが発生するのは、オブジェクト (パブリケーションの Enterprise 受信者および動的受信者など) のスケジュールオプションの設定、オブジェクトの履歴の表示、オブジェクトへのカテゴリの割り当て、BI 受信ボックスへのオブジェクトの送信など、ユーザが特定のアクションを実行した場合のみです。

1. web.config ファイルで、configSections セクションに以下のタグおよび属性値を追加します。

```
<section name="log4net"
type="log4net.Config.Log4NetConfigurationSectionHandler, log4net,
Version=1.2.10.0, Culture=neutral, PublicKeyToken=692fba5521e1304"/>
```

2. 次のタグと属性値を web.config ファイルの appSettings セクションに追加します。

```
<add key="bobj.logging" value="True"/>
<add key="bobj.logging.log4net.override" value="[Physical path]¥¥Logs¥¥
[FileName].xml"/>
```

3. XML ファイルを作成して web.config ファイルの FileName セクションに名前を指定し、次のタグをファイルに追加します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8" ?>
<log4net>
<!-- For log -->
  <root>
    <appender name="LogAppender" type="log4net.Appender.FileAppender" >
      <file value="E:¥¥Logs¥¥iPointLog.log"/> <!-- You can specify any path here
but the container Folder name for the log file has to be Logs -->
      <layout type="log4net.Layout.PatternLayout">
        <conversionPattern value="%date[%thread] %-5level %logger %class -
%m%n" />
      </layout>
    </appender>
    <level value="FATAL"/>
    <level value="WARN"/>
    <appender-ref ref="LogAppender"/>
  </root>
<!-- End for log -->
</log4net>
```

4. web.config ファイルを保存して閉じます。

6.1.3 SharePoint サイトの追加作成

SharePoint テンプレートまたは SAP BusinessObjects テンプレートを使用して、Business Intelligence (BI) コンテンツにアクセス可能な追加の SharePoint サイトを作成できます。

テンプレート	説明
SharePoint チームサイト	サイトを作成したり、SAP BusinessObjects の Web パーツをサイトページに追加したりするために使用します。
SAP BusinessObjects サイト定義	BI コンテンツにアクセスしたり、BI コンテンツを管理するサイトを作成するために使用します。

6.1.3.1 SharePoint チームサイトテンプレート

SharePoint チームサイトテンプレートを使用してサイトを作成する場合、ユーザが Business Intelligence (BI) コンテンツにアクセスできるようにするために、SharePoint で SAP BusinessObjects サイト機能を有効化する必要があります。

SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートを使用して SharePoint サイトを作成すると、SAP BusinessObjects サイト機能は自動的に有効化されます。手動でサイト機能を有効化するには、SharePoint サイトの作成に使用する SharePoint チームサイトテンプレートに以下の項目を追加します。

SAP BusinessObjects サイト機能	説明
SAP BusinessObjects ログオン	(必須) この機能を有効化すると、BI プラットフォームの Central Management Server (CMS) に接続できます。このサイト機能は、CMS に接続して BI コンテンツを操作する必要があるため必須です。
SAP BusinessObjects ログオフ	この機能を有効化すると、CMS からログオフでき、BI コンテンツへのアクセスが切断されます。
SAP BusinessObjects プラットフォームアクションページ	この機能を有効化すると、オブジェクトプロパティの設定、スケジュール、履歴の表示、カテゴリの割り当て、送信などのアクションをレポートまたはオブジェクトで実行できます。
SAP BusinessObjects 基本設定	この機能を有効化すると、パスワード、タイムゾーンと優先表示ロケール、日時、Web Intelligence ドキュメントの基本設定、Crystal レポートの基本設定などを設定できるようになります。

① 注記

ユーザ自身または管理者がユーザのパスワードを変更すると、そのユーザは現在のセッションからログアウトさ

れます。制限事項については、SAP Help Portal で公開されている *SAP Business Intelligence Suite* リリースの制限ガイドを参照してください。

同じマシンで (プロトコルが異なる場合でも) 同じ URL を使用して複数の SharePoint サイトを設定しないでください。URL を入力することはできますが、integration option for SharePoint はインストールされません。たとえば、"http://my_site" という SharePoint サイトと "https://my_site" というサイト (同じ名前だが、暗号化されているサイト) を 1 台のマシンで作成しないでください。

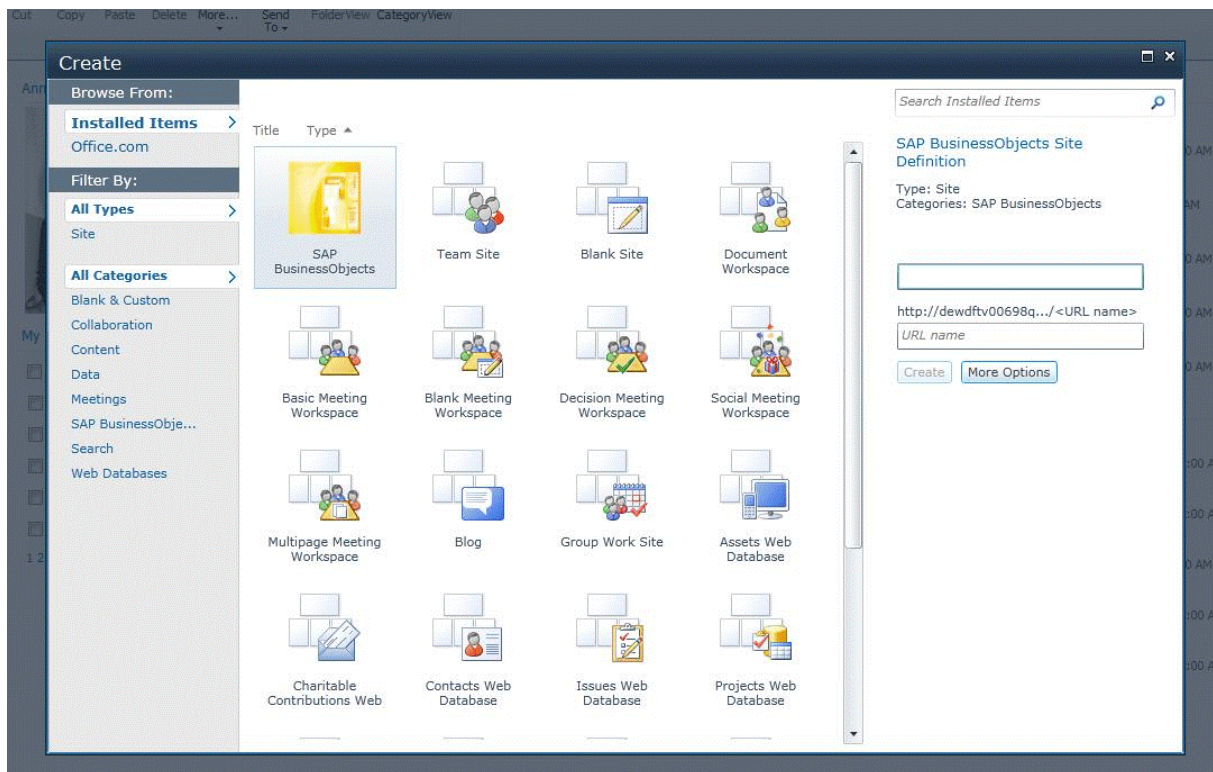
6.1.3.2 SAP BusinessObjects サイト定義テンプレート

SAP BusinessObjects サイト定義テンプレートを使用すると、すぐに使用できるサイトを作成できます。このテンプレートにより、SharePoint 環境において、Business Intelligence (BI) コンテンツの表示と管理、およびこれらのコンテンツとの対話に必要な基本的な操作をすべて行うことができます。

BI プラットフォームオブジェクトを使用するには、SharePoint サイトでページに Web パーツを追加する必要があります。サイト定義テンプレートを使用して、以下の Web パーツをページに追加します。

- IOMS - アドバイズメント
- IOMS - コンテンツエクスプローラ
- IOMS 最近の検索
- IOMS 最近の表示
- IOMS - 検索結果の表示

サイト定義テンプレートは、SharedPoint サイトを作成するために利用可能なテンプレートの SAP BusinessObjects カテゴリに表示されます。テンプレートを選択した後で、サイト固有の URL を指定できます。同じマシンで (プロトコルが異なる場合でも) 同じ URL を使用して複数の SharePoint サイトを設定しないでください。URL を入力することはできますが、integration option for SharePoint はインストールされません。たとえば、"http://my_site" という SharePoint サイトと "https://my_site" というサイト (同じ名前だが、暗号化されているサイト) を 1 台のマシンで作成しないでください。



SharePoint 2010 プラットフォーム (英語での例)

(Integration option for SharePoint で提供される) ビューア Web パーツを、テンプレートを使用して作成するサイトに追加することもできます。

6.1.3.3 SharePoint サイトでの SAP BusinessObjects 機能の有効化

SAP BusinessObjects 機能は、SharePoint サイトで利用する前に有効化する必要があります。

SAP BusinessObjects 機能を SharePoint サイトで有効にする前に、次のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. SharePoint サイトのホームページで、**サイトの操作** > **サイトの設定** > **サイトの機能** を選択します。
[サイトの機能] ページが表示され、使用可能な SAP BusinessObjects 機能が表示されます。
 2. 有効化する各機能の横にある **有効にする** を選択します。

Business Intelligence (BI) コンテンツにアクセスして作業できるようにするには、SharePoint サイトに追加した Web パーツをページに追加する必要があります。

6.1.4 SharePoint サイトの SSL の有効化

SharePoint サイトの Secure Sockets Layer (SSL) を設定するには、web.config ファイルの値を変更します。

SharePoint サイトの SSL を設定する前に、次のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 6.0 以上
1. web.config ファイルの system.serviceModel セクションの basicHttpBinding で次のアクションを実行します。
 - a. 次のタグと属性値を削除します。

```
<binding name="ServerGatewayHttpBinding" messageEncoding="Mtom"
maxBufferSize="2147483647" maxReceivedMessageSize="2147483647">
<readerQuotas maxDepth="2147483647" maxStringContentLength="2147483647"
maxArrayLength="2147483647" maxBytesPerRead="2147483647"
maxNameTableCharCount="2147483647"/>
<security mode="TransportCredentialOnly">
<transport clientCredentialType="Ntlm"/>
</security>
</binding>
```

- b. 次のタグと属性値を追加します。

```
<binding name="ServerGatewayHttpsBinding" messageEncoding="Mtom"
maxBufferSize="2147483647" maxReceivedMessageSize="2147483647">
<readerQuotas maxDepth="2147483647" maxStringContentLength="2147483647"
maxArrayLength="2147483647" maxBytesPerRead="2147483647"
maxNameTableCharCount="2147483647"/>
<security mode="Transport">
<transport clientCredentialType="Ntlm"/>
</security>
</binding>
```

2. behaviors セクションの serviceBehaviors で、次のアクションを実行します。
 - a. <serviceMetadata httpGetEnabled="true" /> を削除します。
 - b. <serviceMetadata httpGetEnabled="true" httpsGetEnabled="true" /> を挿入します。
3. services セクションで、次のアクションを実行します。
 - a. 次のテキストを削除します。

```
<endpoint address="" binding="basicHttpBinding"
bindingConfiguration="ServerGatewayHttpBinding"
name="GatewaySOAP" bindingName=""
contract="BusinessObjects.Sdk.Core.Server.Service.GatewayPort"
bindingNamespace="urn:services-businessobjects-com:coresdk:wsgateway" />
```

- b. 次のテキストを挿入します。

```
<endpoint address="" binding="basicHttpBinding"
bindingConfiguration="ServerGatewayHttpsBinding"
name="GatewaySOAP" bindingName=""
contract="BusinessObjects.Sdk.Core.Server.Service.GatewayPort"
bindingNamespace="urn:services-businessobjects-com:coresdk:wsgateway" />
```

4. web.config ファイルを保存して閉じます。

6.2 SharePoint サイトのページへの Web パーツの追加

Web パーツを追加すると、SharePoint ポータル Web ページの外観と機能を変更できます。

Web パーツを SharePoint ページに追加する前に、次のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
- IIS 7 以上

SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010 では、Microsoft Internet Explorer (IE) 11 はサポートされていません。SharePoint サイトの Web パーツを IE 11 で編集するには、ブラウザでサイトを互換表示で表示する必要があります。SharePoint サイトを IE 11 で開いた状態で、互換表示をオンにするには、**▶ ページ ▶ 互換表示設定 ▶ 追加 ▶** の順に選択し、SharePoint サイトの URL を入力します。

1. ブラウザで、SharePoint ポータルの Web パーツを追加するページに移動します。
2. **[サイトの操作]** 一覧で、**[ページの編集]** を選択します。
ページが編集モードで再表示されます。
3. **[Web パーツの追加]** をクリックします。
SharePoint デプロイメントで使用する Web パーツが **[SAP BusinessObjects]** 領域に一覧表示されます。
4. Web パーツギャラリーの一覧から、追加する Web パーツを選択して、**[追加]** をクリックします。

6.2.1 Web パーツの接続

SharePoint サイトのページで SAP BusinessObjects Web パーツを設定する場合、Business Intelligence (BI) コンテンツの表示およびそのコンテンツとの通信を行うために、Web パーツを接続することが必要な場合があります。

Web パーツを接続する前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
- IIS 7 以上

たとえば、複数のビューア Web パーツを IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツに接続できます。

SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010 では、IE 11 はサポートされていません。SharePoint サイトの Web パーツを IE 11 で編集するには、ブラウザでサイトを互換表示で表示する必要があります。

SharePoint サイトを IE 11 で開いた状態で、互換表示をオンにするには、**▶ ページ ▶ 互換表示設定 ▶ 追加 ▶** の順に選択し、SharePoint サイトの URL を入力します。

1. SharePoint の編集モードで、IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツの**編集**をクリックします。
2. **▶ 接続 ▶ リポトリエクスプローラの送信先 ▶**を選択します。
SharePoint ページに追加された Web パーツが一覧表示されます。
3. Web パーツをクリックして IOMS - コンテンツエクスプローラ Web パーツに接続します。

6.2.2 空白サイトへの IOMS - 検索結果の表示 Web パーツの追加

Business Intelligence (BI) リポジトリおよび SharePoint リポジトリを検索し、両方のリポジトリの検索結果を 1 つのサイトに表示することができます。

IOMS - 検索結果の表示 Web パーツを空白サイトに追加する前に、サイトコレクションが設定されている必要があります。また、以下のツールをインストールする必要があります。

- .NET Framework 3.5 以上
- IIS 7 以上

SharePoint 2016、SharePoint 2013、および SharePoint 2010 では、IE 11 はサポートされていません。SharePoint サイトの Web パーツを IE 11 で編集するには、ブラウザでサイトを互換表示で表示する必要があります。

SharePoint サイトを IE 11 で開いた状態で、互換表示をオンにするには、**ページ > 互換表示設定 > 追加** の順に選択し、SharePoint サイトの URL を入力します。

1. 空白の SharePoint サイトページを作成します。
たとえば、Bobjsrch.aspx というページを作成します。
2. **IOMS - 検索結果の表示** Web パーツおよび **Microsoft の主要な検索結果** Web パーツをページに追加します。
3. **サイトの操作 > サイトの設定** を選択し、**[サイトコレクションの管理]** セクションで **[検索の設定]** をクリックします。
4. **サイト コレクションの検索結果ページ** ボックスに、**/SitePages/Bobjsrch.aspx** を入力します。
5. サイトの任意の Web ページで検索を実行します。

ページに、BI リポジトリと SharePoint リポジトリの両方の検索結果が表示されます。

6.3 IIS for AnalyticalReporting での匿名アクセスの有効化

SharePoint ポータルで Web Intelligence ドキュメントを作成または編集するには、IIS で AnalyticalReporting に対して匿名アクセスを有効にする必要があります。

匿名アクセスを有効にする前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
- IIS 7 以上

Web Intelligence ドキュメントを SharePoint 2016 または SharePoint 2013 で表示する前に、Web Intelligence Web サービスをサイトにデプロイする必要があります。このサービスは、integration option for SharePoint のウィザードインストール中か、手動でデプロイできます。

1. **スタート > コントロールパネル > 管理ツール > IIS マネージャ** の順に選択します。

→ ヒント

また、コマンドラインで **inetmgr** と入力することもできます。

2. IIS マネージャで、**サイト > SharePoint サイト <port> > _layouts > AnalyticalReporting** の順に選択します。
3. **[機能]** ビューで、**[認証]** をダブルクリックします。

4. [認証] ページで、[匿名認証] を選択します。
5. [操作] ペインで [有効にする] をクリックします。

6.4 SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint 2010 のホストヘッダのインストール

SharePoint のホストヘッダをインストールする前に、SharePoint の前提条件がすべて満たされていることを確認し、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
 - Microsoft SQL Server 2008
 - SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint Server 2010
1. サーバマネージャで **役割 > 役割の追加** をクリックし、役割の追加ウィザードのサーバの役割の選択ウィンドウで **DNS サーバ** チェックボックスを選択します。
 2. SharePoint チームサイトテンプレートを使用して、ポート 80 のデフォルトの SharePoint Web アプリケーションに対してトップレベルサイトを作成します。
 3. SharePoint サーバの全体管理で、NT LAN Manager (NTLM) の要求による認証に使用する Web アプリケーションを作成します。
 - a. [新しい Web アプリケーションの作成] ページで、[認証] の横で [クラシックモード認証] を選択します。
 - b. **IIS Web サイト** の横で、**新しい IIS Web サイトを作成する** を選択し、名前ボックスに **sharepoint** -<port> を入力します。
たとえば、**sharepoint -19369** と入力します。
<port> は、Web アプリケーションを作成するポートです。
 - c. **ポート** ボックスに、前のステップで入力したものと同一ポート番号を入力します。
たとえば、**19369** と入力します。
 - d. **ホスト ヘッダー** ボックスに、Web アプリケーションのホストヘッダ名を入力します。
たとえば、**ioms.<HostHeader>.com** と入力します。
パス ボックスに、**C:\inetpub\wwwroot\wss\VirtualDirectories\<HostHeader>:<port>** が表示されます。
 - e. 必要に応じて、[パス] ボックスで、Web アプリケーションへのパスを変更します。
 - f. [セキュリティの構成] の横で、[認証プロバイダ] の下から [NTLM] を選択します。
 - g. 必要に応じて、Web アプリケーションへの URL を [URL] ボックスで変更します。ただし、[認証プロバイダ] のその他のオプションは、デフォルト値に設定したままにします。
パブリック URL の横の **URL** ボックスに、**http://<HostHeader>:<port>** が表示されます。

④ 注記

同じコンピュータで (プロトコルが異なる場合でも) 同じ URL を使用して複数の SharePoint サイトを設定しないでください。URL を入力することはできますが、integration option for SharePoint software はインストールされません。たとえば、"http://my_site" という SharePoint サイトと "https://my_site" というサイト (同じ名前だが、暗号化されているサイト) を作成しないでください。

- h. [アプリケーションプール] の横で、[新しいアプリケーションプールを作成する] を選択します。

アプリケーション プール名ボックスに、**SharePoint - <HostHeader>:<port>** が表示されます。

- i. 必要に応じて、[アプリケーションプール名] ボックスで、アプリケーションプールの名前を変更します。
 - j. [このアプリケーションプールのセキュリティアカウントを選択してください] で [定義済み] を選択し、リストで [ネットワークサービス] を選択し、[OK] をクリックします。
4. チームサイトテンプレートを使用して、以下のようにサイトコレクションを作成します。
- a. **サイト コレクションの作成** ページで、サイトコレクションのタイトルおよび説明を入力します。
 - b. [Web サイトのアドレス] の横で、[URL] リストの [/] を選択します。
 - c. [テンプレートの選択] の横で、[グループ作業] タブの [チームサイト] を選択します。
 - d. **サイト コレクション管理者 (プライマリ)** の横で、**ユーザー名** ボックスに **<SharepointMachine>\administrator** と入力し、**OK** をクリックします。
<SharepointMachine> は、SharePoint がインストールされているコンピュータの名前です。
- [**トップレベルサイトが作成されました**] ボックスが表示され、新しいサイトが正しく作成されたことが確認されます。このサイトにアクセスするには、DNS サーバを設定する必要があります。
5. 以下のように DNS サーバを設定します。
- a. DNS マネージャの **<SharepointMachine>** で、**前方参照ゾーン** を右クリックし、**新しいゾーン** を選択します。
<SharepointMachine> は、SharePoint がインストールされているコンピュータの名前です。
 - b. **プライマリ ゾーン** を選択し、Web アプリケーションに対して入力したホストヘッダ名を **ゾーン名** ボックスに入力して、終了するまで **次へ** をクリックします。
 - c. テキストエディタで、SharePoint マシン上の hosts ファイルを開き、SharePoint マシンのインターネットプロトコル (IP) アドレスを Web アプリケーションに対して入力したホストヘッダにマッピングします。
 - d. Windows レジストリエディタで、**HKLM\System\CurrentControlSet\Control\Lsa** を探して開き、**[DisableLoopbackCheck]** の **[DWORD (32 ビット) 値]** を追加し、値を「**1**」に設定します。
 - e. Internet Information Services (IIS) マネージャで、**Sharepoint - <HostHeader>:<port>** を右クリックし、**バインド** を選択します。
 - f. [サイトバインド] ダイアログボックスで、**[編集]** をクリックします。
 - g. **サイト バインドの編集** ダイアログボックスで、**IP アドレス** ボックスに SharePoint マシンの IP バージョン 4 (IPv4) アドレスを入力します。
 - h. SharePoint マシンを再起動します。
 - i. **http://<HostHeader>:<port>** の Web サイトが存在するため、IE **ローカル エリア ネットワーク (設定)** ダイアログボックスでプロキシサーバを無効にします。
6. **http://<HostHeader>:<port>** URL にジャンプします。
新しいサイトのホームページが表示されます。SharePoint が、Integration option for SharePoint software インストール用に準備されました。
7. 以下のように、SAP BusinessObjects Integration option for SharePoint software を SharePoint マシンにインストールします。
- a. **SAP Integration for Microsoft SharePoint 4.1 設定** ダイアログボックスで、**http://<SharepointMachine>:<port> [SharePoint - <HostHeader>:<port>]** チェックボックスを選択します。
 - b. テキストエディタで、SharePoint マシン上の hosts ファイルを開き、BI プラットフォームマシンの IP とホストのマッピングを追加します。
このようにすると、Integration option for SharePoint software インストールにより hosts ファイルから Central Management Server (CMS) 名と OpenDocument のベース URL が設定されます。

8. `http://<SharepointMachine>:<port>` IIS サイトで SAP BusinessObjects integration option for SharePoint software をインストールした後、ホストヘッダを使用して SharePoint Web アプリケーションを設定します。
 - a. SharePoint サーバの全体管理で、**システム設定** > **ファーム管理** > **ファームソリューションの管理** を選択し、`infoview.wsp` をクリックします。
[**ソリューションのプロパティ**] ページが表示されます。SAP BusinessObjects integration option for SharePoint software は、`http://<HostHeader>:<port>` Web アプリケーションには展開されないことに注意してください。
 - b. **ソリューションの展開** をクリックし、`infoview.wsp` を `http://<HostHeader>:<port>` に展開します。
[**ソリューションの展開**] ページが表示されます。
 - c. 展開先の横で、このソリューションを展開する Web アプリケーションの選択リストから `http://<HostHeader>:<port>` を選択します。
ソリューションのプロパティページが表示され、SAP BusinessObjects integration option for SharePoint software が `http://<HostHeader>:<port>/`; `http://<SharePointMachine>:<port>/`; `http:<SharePointMachine>/` Web アプリケーションに展開されたことが表示されます。
9. コマンドラインで、以下のコマンドを入力します。


```
call "C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\BIN\stsadm.exe" -o deploysolution -name "InfoView.wsp" -allowgacdeployment -immediate -force -url http://<HostHeader>:<port>
```
10. `http://<HostHeader>:<port>` にジャンプし、新しい SharePoint サイトを作成します。
 - a. 新しい **SharePoint サイト** ページで、サイトのタイトルおよび説明を入力します。
 - b. **Web サイトのアドレス** の横で、**URL 名** ボックスに新しいサイトの URL を入力します。
同じマシンで (プロトコルが異なる場合でも) 同じ URL を使用して複数の SharePoint サイトを設定しないでください。URL を入力することはできますが、integration option for SharePoint software はインストールされません。たとえば、"`http://my_site`" という SharePoint サイトと "`https://my_site`" というサイト (同じ名前だが、暗号化されているサイト) を 1 台のマシンで作成しないでください。
 - c. [**テンプレートの選択**] の横で、[**SAP BusinessObjects**] タブの [**SAP BusinessObjects サイト定義**] を選択し、[**作成**] をクリックします。
サイトのホームページが作成されます。
11. クライアントマシンで、`host` ファイルを開き、次のテキストを追加します。
`[<SHAREPOINT machine IPv4 ip> <HostHeader>]`

ブラウザで `http://<HostHeader>` サイトを開くと、SharePoint 管理者の認証情報を入力するよう指示されます。

6.5 SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint 2010 のサーバファームのインストール

SharePoint のサーバファームをインストールする前に、SharePoint の前提条件がすべて満たされていることを確認します。物理アーキテクチャ、論理アーキテクチャ、仕様、アカウントユーザ名とパスワード、ライセンスキーなど必要な項目を書き留めておきます。さらに、次のツールもインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
 - SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint Server 2010
1. Integration option for SharePoint software のインストールファイルを実行します。
 2. SharePoint インストールウィザードで、[インストール] の [ソフトウェア必須コンポーネントのインストール] をクリックします。
Microsoft SharePoint 製品準備ツールのようこそウィンドウが表示され、インストールされる必須コンポーネントが一覧表示されます。
 3. 必須コンポーネントの一覧を確認し、インストールされているアイテムを削除します。
たとえば、必須コンポーネントをインストールする前に Windows Identity Foundation をアンインストールしないと、インストールウィザードは自動的に終了します。
 4. [ようこそ] ウィンドウで、[次へ] をクリックして必須コンポーネントのインストールを開始します。
必須コンポーネントがインストールできない場合は、ウィザードが続行可能であっても、問題を修正してからインストールを続行する必要があります。
 5. [ソフトウェア製品のライセンス条項] ウィンドウで、使用権許諾契約の条件に同意し、[次へ] をクリックします。
ステータスバーが表示され、必須コンポーネントのインストールの進行状況が示されます。すべての必須コンポーネントがインストールされると、インストールが完了しましたウィンドウが表示されます。インストールされていない必須コンポーネントには、名前に (操作は実行されません。) という文字列が付けられています。
 6. 完了をクリックし、Microsoft SharePoint 製品準備ツールウィザードを閉じ、Microsoft SharePoint Server インストールウィザードを開始します。
 7. プロダクトキーの入力ウィンドウで、ボックスにライセンスキーを入力し、続行をクリックします。
 8. [マイクロソフトソフトウェアライセンス条項をお読みください] ウィンドウで、条項に同意するチェックボックスを選択し、[続行] をクリックします。
 9. [インストールの種類を選択してください] ウィンドウで、[サーバファーム] をクリックします。
 10. [サーバの種類] ウィンドウで、[完全 – すべてのコンポーネントをインストールします。サーバを追加して SharePoint ファームを構成することができます] を選択し、[今すぐインストール] をクリックします。
- [インストールの進行状況] ウィンドウが表示され、インストールの進行状況が示されます。

6.5.1 サーバファームへのサーバの追加

サーバファームのインストール後、このタスクを実行してサーバをサーバファームに追加します。

サーバを追加する前に、物理アーキテクチャ、論理アーキテクチャ、仕様、アカウントユーザ名とパスワード、ライセンスキーなど必要な項目を書き留めておきます。さらに、次のツールもインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. SharePoint サーバの全体管理を行うサーバで、SharePoint 製品構成ウィザードを開始します。
 2. 構成ウィザードの実行ウィンドウで、チェックボックスをオンにし、閉じるをクリックします。
 3. SharePoint 製品へようこそウィンドウで、次へをクリックします。
サーバファームの構成の途中で、一部のサービスを停止するか、またはリセットして再起動する必要がある場合があります。

4. サービスの停止と再起動に関するメッセージが表示されたら、[はい](#)をクリックして続行します。
5. [サーバファームへの接続](#)ウィンドウで、[既存のサーバファームへの接続](#)を選択し、[次へ](#)をクリックします。
6. [構成データベース設定の指定](#)ウィンドウで、次の操作を実行します。
 - a. [データベースサーバ](#)ボックスに、データベースサーバ名を入力します。
 - b. [データベース名](#)ボックスに、データベース名を入力します。
 - c. [ユーザ名](#)ボックスに、データベースアクセスアカウントのユーザ名を入力します。
 - d. [パスワード](#)ボックスに、データベースアクセスアカウントのパスワードを入力し、[次へ](#)をクリックします。
7. [ファームセキュリティ設定の指定](#)ウィンドウで、[パスフレーズ](#)ボックスと[パスフレーズの確認](#)ボックスにパスフレーズを入力し、[次へ](#)をクリックします。
 SharePoint のパスフレーズは、ファーム構成データを保護し、ファームにサーバを追加する際に必要となります。
8. [SharePoint サーバの全体管理 Web アプリケーションの構成](#)ウィンドウで、[ポート番号を指定する](#)ボックスにポート番号を入力するか、ウィザードによって割り当てられたランダムな番号を受け入れます。
9. [セキュリティ設定の構成](#)で、[NTLM](#) または [ネゴシエート \(Kerberos\)](#) を選択し、[次へ](#)をクリックします。
10. [SharePoint 製品構成ウィザードの終了](#)ウィンドウで、適用される構成設定を確認し、必要に応じて修正してから、[次へ](#)をクリックします。
[SharePoint 製品の構成中](#)ウィンドウが表示され、構成の進行状況が示されます。構成が完了すると、[構成が正常に完了しました](#)ウィンドウが表示されます。
11. [完了](#)をクリックします。
12. SharePoint サーバの全体管理で、[SharePoint ファームの構成](#)ページの[ウィザードの開始](#)をクリックし、ファーム構成ウィザードを開きます。
 ウィザードの構成では、すべてのサービスアプリケーションに対してファームアカウントを使用します。特定のサービスアプリケーションが実行されるアプリケーションプールおよびサービスアカウントを変更するには、管理アカウントを登録し、[サーバーのサービス](#)または[サービスアプリケーション](#)ウィンドウで変更を行います。
13. 構成が完了すると表示されるウィンドウで、[完了](#)をクリックします。

6.6 IIS 6 での SSL の設定

IIS で Secure Sockets Layer (SSL) を設定する前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 6
1. IIS を実行している SharePoint サーバの全体管理サイトにログインします。
 2. [\[アプリケーション構成の管理\]](#) タブで、[\[SharePoint Web アプリケーション構成の管理\]](#) の [\[Web アプリケーションの作成または拡張\]](#) リンクをクリックします。
 3. [Web アプリケーション](#)リストで、[既存の Web アプリケーションの拡張](#)を選択し、SSL を設定する Web アプリケーションを選択します。
 4. [新しい IIS Web サイトを作成する](#)ボックスで、Web サイト名を入力します。
 5. [ポート](#)ボックスにデフォルトの SSL ポート番号を入力します。
 6. [\[SSL を使用する\]](#) チェックボックスをオンにします。

7. [URL](#) ボックスに正しい URL が表示されていることを確認します。
 8. [[ゾーン](#)] リストから [[カスタム](#)] を選択し、[OK] をクリックします。
 9. IIS Web サイトで、作成したサイトを選択し、[プロパティ](#) をクリックします。

この Web サイトは、ポート 80 に設定する必要があります。1 つの Web サイトのみがポート 80 で実行できます。別の Web サイトがすでにポート 80 に設定されている場合は、新しい Web サイトを別のポートに変更してください。

[[プロパティ](#)] ダイアログボックスが表示されます。
 10. [[ディレクトリセキュリティ](#)] タブで、[[サーバ証明書](#)] をクリックし、次の操作のいずれかを実行します。
 - すでにサーバ証明書がシステムに存在する場合は、[[既存の証明書を使用](#)] を選択し、ウィザードの指示に従います。
 - 証明書がない場合は、証明書作成ユーティリティをダウンロードし、証明書をインストールします。
 11. [[ディレクトリセキュリティ](#)] タブの [[セキュリティで保護された通信](#)] セクションで、[[編集](#)] をクリックします。
 12. HTTP を使用してサイトにアクセスするには、[[SSL が必要](#)] と [[128 ビットの暗号化](#)] を選択します。

これらのオプションが使用できない場合は、HTTP または HTTPS を使用してサイトにアクセスできます。
 13. クライアント証明書がない場合は、[[クライアント証明書を無視する](#)] を選択します。
 14. [OK] をクリックしてから [[適用](#)] をクリックします。
 15. [[SharePoint 3.0 サーバの全体管理](#)] ページで、[[操作](#)] タブをクリックし、[[代替アクセスマッピング](#)] リンクをクリックします。
 16. [代替のアクセスマッピングコレクション](#) リストで、SSL をマッピングするコレクションを選択します。

パブリック URL がカスタムゾーンに指定されていることを確認します。パブリック URL が指定されていない場合は、パブリック URL を [[カスタム](#)] ゾーンに追加する必要があります。
 17. ブラウザで、SSL の URL を入力します。
- サイトのすべてのページおよび Web パーツ内を移動できます。移動中に URL が HTTPS から HTTP に変わっていないことを確認します。

6.7 IIS 8 または 7.5 での SSL の設定

IIS 8 は SharePoint 2016 および SharePoint Server 2013 をサポートする Web アプリケーションサーバであり、IIS 7.5 は SharePoint Server 2010 をサポートする Web アプリケーションサーバです。

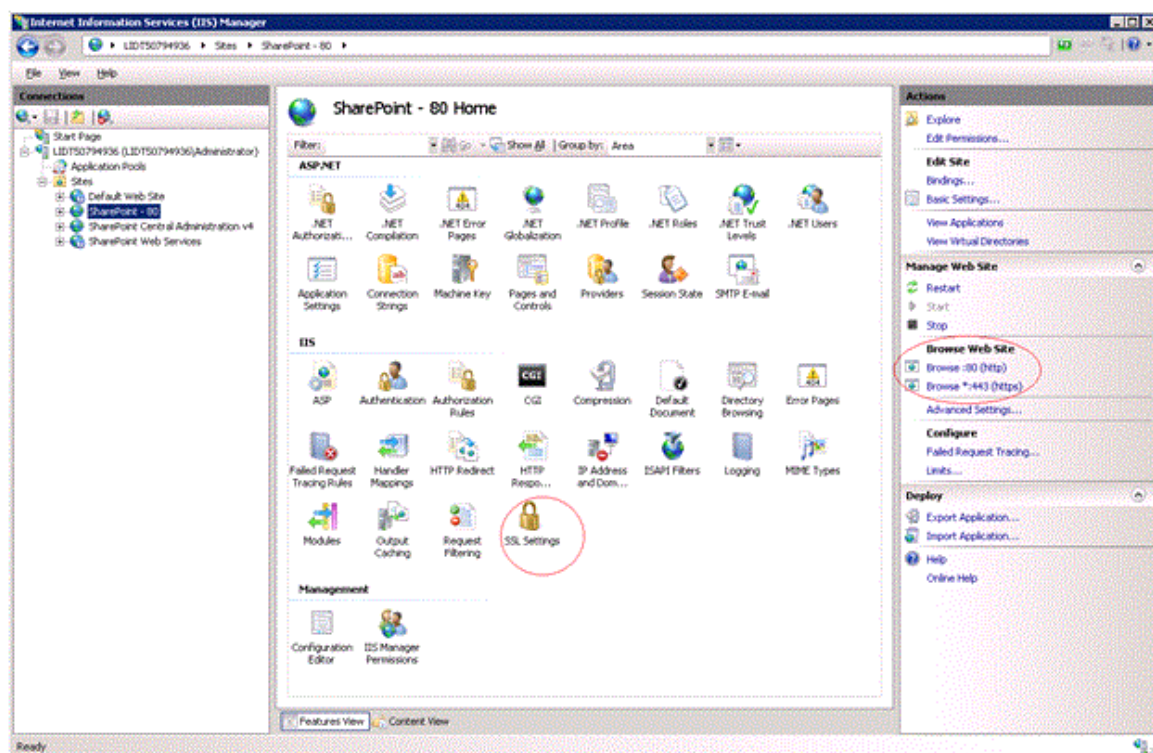
IIS 8 または 7.5 で SSL を設定する前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 8 または 7.5
1. IIS が実行中の SharePoint サーバの全体管理にログオンし、コマンドラインに `inetmgr` を入力します。
 2. 表示されるウィンドウで、ルートサーバノードを選択します。

右ペインに機能リストが表示されます。機能リストが表示されない場合は、ルートノードを右クリックし、[[機能ビューに切り替え](#)] を選択します。
 3. [サーバー証明書](#) をダブルクリックします。
 4. [サーバー証明書](#) ウィンドウの [操作](#) ペインで [自己署名入り証明書の作成](#) をクリックします。

[操作](#) ペインはウィンドウの右側にあります。

5. 自己署名入り証明書の作成ウィンドウで、証明書の名前を入力し、**OK** をクリックします。
通常、証明書の名前は IIS を実行中のマシンの名前です。
6. 接続ペインの**サイト**で、SSL を有効化する SharePoint のサイトを右クリックし、**バインドの編集**を選択します。
[接続] ペインは、[サーバ証明書] ウィンドウの左側にあります。
7. [バインドの編集] ウィンドウで、[追加] をクリックします。
8. [サイトバインドの追加] ウィンドウで、[種類] に **[http]** を選択します。
9. 既定のポートの値を **443** に設定します。
10. [SSL 証明書] ボックスから追加した SSL 証明書を選択し、**[OK]** をクリックします。
証明書のエントリが、[サイトバインド] ウィンドウに追加されます。
11. [閉じる] をクリックします。
[IIS マネージャ] ウィンドウの左側でサイトを選択し、▶ **操作** ▶ **Web サイトの管理** ▶ **Web サイトの参照** ▶ を順に選択すると、ウィンドウ右側の [Web サイトの参照] 領域に、[参照 *:443 (http)] という新しいバインド値が表示されます。



[IIS マネージャ] ウィンドウ (英語での例)

12. ウィンドウ中央の IIS 機能リストで **[SSL 設定]** をダブルクリックします。
13. **[SSL が必要]** チェックボックスをオンにし、[操作] ペインで **[適用]** をクリックします。
選択したサイトは、SSL URL とデフォルトのポートを使用して設定されます。
14. サイトの URL (http://lidt50794936 など) を入力して、**このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)** リンクを選択します。
ログオン後、通常の SharePoint 認証情報を入力してサイトにログオンできます。
以下のメッセージが表示されます。
"サーバー上のセキュリティで保護されたブラウザーからこのサイトにアクセスしようとしている可能性があります。スクリプトを有効にして、このページを再度読み込んでください。"

15. このメッセージが再度表示されないようにするには、http URL をブラウザの信頼済みサイトに追加します。
 - a. ブラウザで、**ツール** > **インターネットオプション** を選択します。
 - b. **[セキュリティ]** タブで、**[信頼済みサイト]** をクリックし、**[サイト]** をクリックします。
 - c. **信頼済みサイト** ダイアログボックスで、**この Web サイトをゾーンに追加する** ボックスに Web サイトの URL を入力し、**追加** をクリックします。
16. **[閉じる]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。
SSL 有効サイトにアクセスすると、メッセージは表示されなくなります。

リモートクライアントマシンから SharePoint SSL URL にアクセスする場合、証明書をサーバにエクスポートしてから、リモートクライアントマシン上にインポートする必要があります。

6.8 リバースプロキシ向けの ISA Server 2006 の設定

リバースプロキシ向けに Internet Security and Acceleration (ISA) Server 2006 を設定するには、以下のツールをインストールします。

- Microsoft ISA Server 2006 (Windows 認証情報を使用)
- .NET Framework 3.5 以上
- IIS 7 以上

1. ISA 2006 を開始します。
2. **ファイアウォールポリシー** を右クリックし、**新規作成** > **SharePoint サイトの公開ルール** を右クリックします。
[SharePoint 公開ルールウィザードへようこそ] ページが表示されます。
3. **SharePoint 公開ルール名** ボックスで、公開ルール名を入力し、**次へ** をクリックします。
[公開の種類] ページが表示されます。
4. **[1つの Web サイトまたは負荷分散装置を公開する]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
[サーバ接続のセキュリティ] ページが表示されます。
5. **[保護されていない接続を使用して公開済み Web サーバまたはサーバファームに接続する]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
[内部公開の詳細] ページが表示されます。
6. **内部サイト名** ボックスで、内部サイト名を入力します。
内部サイト名とは、Microsoft Office SharePoint Server (MOSS) が動作しているシステムです。
7. **コンピュータ名または IP アドレスを使用して公開済みサーバに接続する** を選択し、**コンピュータ名または IP アドレス** ボックスにコンピュータ名または IP アドレスを入力し、**次へ** をクリックします。
[パブリック名の詳細] ページが表示されます。
8. **[要求の許可]** リストから **[任意のドメイン名]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
[Web リスナーの選択] ページが表示されます。
9. **[新規作成]** をクリックします。
[新規 Web リスナーウィザードへようこそ] ページが表示されます。
10. Web リスナー名を入力し、**[次へ]** をクリックします。
[クライアント接続のセキュリティ] ページが表示されます。
11. **[クライアントとの SSL セキュリティ保護接続を必要としない]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
[Web リスナーの IP アドレス] ページが表示されます。

12. [外部]、[内部]、[ローカル ホスト] を選択し、[次へ] をクリックします。
13. 認証設定ページで、[認証なし](#)を選択し、[完了](#)をクリックします。
14. 新たに作成されたリスナーを選択し、**プロパティ** > **認証** をクリックします。
15. 詳細をクリックし、[すべてのユーザに認証を要求する](#)と[HTTP 経由でのクライアントの認証を許可する](#)を選択します。
16. 認証委任ページで、リストから[委任できません。クライアントは直接認証できません](#)を選択し、[次へ](#)をクリックします。
17. 代替アクセスマッピングの構成ページで、次のうちいずれかのオプションを選択します。
 - [SharePoint AAM が既に SharePoint サーバに設定されている](#)
 - [SharePoint AAM が設定されていない。SharePoint AAM が設定されているか不明な場合にも、このオプションを選択する。](#)
18. [次へ](#)をクリックします。
19. 新しい [SharePoint 公開ルールウィザードの完了](#)ページで、[完了](#)をクリックします。
公開ルールが作成されます。
20. 公開ルールを選択し、[適用] をクリックします。
21. ルールを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
22. **プロパティ**ダイアログボックスの**リスナー**タブで、正しいポートとプロトコルが表示されていることを確認します。
デフォルトでは、ポート 80 が使用されます。ポート番号は、[接続] タブで変更できます。
23. **パブリック名**タブで、[このルールの適用先](#)リストから次の [Web サイトを要求する](#)を選択し、リバースプロキシ URL を入力します。
24. **パス名**の横で、クライアントパスをサーバパスにマッピングします。
25. [宛先] タブで、宛先システムの正しい名前と IP アドレスが表示されていることを確認します。
26. **ブリッジ**タブで、[HTTP ポートに要求をリダイレクトする](#)を選択し、SharePoint 拡張 Web アプリケーションが実行されているポートを入力します。
リバースプロキシが拡張 Web アプリケーションを示すようにするには、拡張 Web アプリケーションのポート番号を入力します。リバースプロキシが SharePoint ベースアプリケーションを示すようにするには、ベースアプリケーションのポート番号を入力します。
27. ルールを選択し、[適用] をクリックします。

6.8.1 SharePoint ベースアプリケーション用のリバースプロキシの設定

SharePoint ベースアプリケーション用のリバースプロキシを設定する前に、Internet Security and Acceleration (ISA) Server を Integration Option for Microsoft SharePoint software に対して設定し、次のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. SharePoint サーバの全体管理にログインします。
 2. [操作] をクリックし、[代替アクセス マッピング] リンクをクリックします。
 3. リストで、SharePoint ベースアプリケーションを選択します。

4. [\[内部 URL の追加\]](#) リンクをクリックし、リバースプロキシ URL を入力します。
5. [\[ゾーン\]](#) リストで、[\[既定\]](#) を選択します。
6. IIS で [\[認証の種類\]](#) を [\[Basic\]](#) に変更します。

6.8.2 既存の Web アプリケーションの拡張

既存の Web アプリケーションを拡張する前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 6 以上
1. SharePoint サーバの全体管理にログインします。
 2. [\[アプリケーション構成の管理\]](#) タブで、[\[Web アプリケーションの作成または拡張\]](#) リンクをクリックします。
 3. [Web アプリケーション](#) リストから、[既存の Web アプリケーションの拡張](#) を選択します。
 4. リバースプロキシを設定する Web アプリケーションを選択します。
 5. 説明、ポート、URL などを入力します。
 6. ゾーン ([\[インターネット\]](#) など) を選択し、[\[OK\]](#) をクリックします。
 7. SharePoint サーバの全体管理サイトで、[\[操作\]](#) タブをクリックし、[\[代替アクセスマッピング\]](#) リンクをクリックします。
 8. リストで、Web アプリケーションを選択します。
 9. [\[内部 URL の追加\]](#) リンクをクリックし、リバースプロキシ URL を入力します。
 10. [ゾーン](#) リストから、拡張 Web アプリケーションのゾーンを選択し、[OK](#) をクリックします。

Web アプリケーションに拡張 Web サイトが作成されます。

6.8.3 拡張 Web アプリケーション用のリバースプロキシの設定

拡張 Web アプリケーションの web.config ファイルを変更する前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 6 以上
1. すべての .dll ファイルとフォルダを SharePoint ベースアプリケーションの bin フォルダから拡張 Web アプリケーションの bin フォルダにコピーします。
 2. SharePoint ベースアプリケーションの web.config ファイルを開き、1 つの sessionState エントリがあることを確認し、その他のすべてのエントリをコメントアウトします。
その 1 つの sessionState エントリは `"sessionState mode = Inproc"/` である必要があります。
 3. 拡張 Web アプリケーションで、crystalreports12 という仮想フォルダを作成し、これを `C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\win64_x64\dotnet\crystalreportviewers12` に指定します。
 4. 次のフォルダを仮想フォルダに変換します。
 - InfoviewApp
 - InfoViewAppActions

- PlatformServices
 - AnalyticalReporting
 - CrystalReports
 - Xcelsius
5. 拡張 Web アプリケーションの仮想フォルダが、SharePoint ベースアプリケーション内の同じアプリケーションプールを示していることを確認します。
 6. SharePoint ベースアプリケーションの web.config ファイルと拡張 Web アプリケーションの web.config ファイルを比較し、欠けているエントリが含まれるように拡張アプリケーションの web.config ファイルを変更します。

6.9 LDAP 認証の設定

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 認証を設定する前に、以下のツールをインストールします。

- MOSS 2007 以上および LDAP サーバ
- .NET Framework 3.5 以上
- IIS 7 以上

さらに、LDAP にグループおよびユーザを作成し、MOSS 2007 に SharePoint Web アプリケーションを作成する必要があります (MOSS 2007 と LDAP が別々のシステムに存在する場合は、これらの 2 つのシステムは互いに通信する必要があります)。

1. SharePoint サーバの全体管理にログインします。
2. [アプリケーション構成の管理](#) タブで、[SharePoint Web アプリケーション構成の管理](#)の [Web アプリケーション](#)の作成または拡張リンクをクリックします。
3. [\[Web アプリケーションの拡張\]](#) をクリックします。
4. ポート名、ホスト名などを入力します。
5. [\[ゾーン\]](#) リストから [\[カスタム\]](#) を選択し、[\[作成\]](#) をクリックします。
拡張済みアプリケーションが作成されます。
6. [\[アプリケーション構成の管理\]](#) タブで、[\[アプリケーションセキュリティ\]](#) の [\[認証プロバイダ\]](#) リンクをクリックします。
7. [\[認証プロバイダ\]](#) ページで [\[ゾーン\]](#) リンクをクリックします。
8. [\[認証の編集\]](#) ページで、認証タイプとして [\[フォーム\]](#) を選択します。
9. [\[メンバーシッププロバイダ名\]](#) ボックスに、メンバーシッププロバイダ名を入力します。
LDAP メンバーシッププロバイダ名は、web.config ファイルに指定されています。
10. [\[ロールマネージャ名\]](#) ボックスに、ロールマネージャ名を入力します。
11. [\[クライアント統合を有効にする\]](#) に対しては、[\[いいえ\]](#) を選択します。
12. [保存](#) をクリックします。

拡張 Web アプリケーションの web.config ファイルの [\[認証モード\]](#) の名前が [\[フォーム\]](#) に変更されます。

サイト管理者として SharePoint 拡張 Web アプリケーションにログインすると、ユーザは、ユーザとユーザグループの追加と削除など、すべての管理タスクを実行できます。

6.9.1 拡張 Web アプリケーション用の LDAP の設定

拡張 Web アプリケーションの web.config ファイルを変更する前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. IIS マシンにログオンし、SharePoint サーバの全体管理にログオンします。
 2. web.config ファイルの </system.web> タグと <runtime> タグの間に、次の行を追加します。

```
<connectionStrings>
<add name="LDAPConnectionString"
connectionString="ldap://bo-test.product.businessobjects.com:35020/dc=product,
dc=businessobjects, dc=com"/>
</connectionStrings>
```

3. </authorization> タグと <httpModules> タグの間に以下の行を追加します。

```
<membership defaultProvider="LDAPMembership">
<providers>
<add name="LDAPMembership"
type="Microsoft.Office.Server.Security.LDAPMembershipProvider,Microsoft.Office
.Server,
Version=12.0.0.0,
Culture=neutral,PublicKeyToken=71e9bce111e9429c"
server="bo-test"
port="35020"
useSSL="false"
userDNAttribute="dn"
userNameAttribute="uid"
userContainer="dc=product,dc=businessobjects,dc=com"
userObjectClass="top"
useDNAttribute="false"
userFilter="(ObjectClass=top)"
scope="Subtree"
otherRequiredUserAttributes="sn,givenname,cn"/>
</providers>
</membership>
```

指定した値は、LDAP にユーザが作成された方法によって異なる場合があります。

4. 拡張 Web アプリケーションの web.config ファイルを開き、以下の行を追加します。

```
<roleManager defaultProvider="LDAPRoleProvider"
enabled="true" cacheRolesInCookie="true"
cookieName=".PeopleDCRole">
<providers>
<add name="LDAPRoleProvider"
type="Microsoft.Office.Server.Security.LDAPRoleProvider,
Microsoft.Office.Server, Version=12.0.0.0, Culture=neutral,
PublicKeyToken=71E9BCE111E9429C" server="bo-test" port="35020"
useSSL="false"
groupContainer="dc=product,dc=businessobjects,dc=com"
groupNameAttribute="cn"
groupMemberAttribute="uniquemember"
userNameAttribute="uid"
dnAttribute="dn"
useUserDNAttribute="false"
groupFilter="(ObjectClass=top)"
scope="Subtree" />
</providers>
</roleManager>
```

5. SharePoint サーバの全体管理サイトの web.config ファイルを開き、</authorization> タグと <httpModules> タグの間に以下の行を追加します。

```
<roleManager
defaultProvider="AspNetWindowsTokenRoleProvider"
enabled="true" cacheRolesInCookie="true"
cookieName=".PeopleDCRole">
<providers>
<add name="LDAPRoleProvider"
type="Microsoft.Office.Server.Security.LDAPRoleProvider,
Microsoft.Office.Server, Version=12.0.0.0, Culture=neutral,
PublicKeyToken=71E9BCE111E9429C"
server="bo-test"
port="35020"
useSSL="false"
groupContainer="dc=product,dc=businessobjects,dc=com"
groupNameAttribute="cn"
groupMemberAttribute="uniquemember"
userNameAttribute="uid"
dnAttribute="dn"
useUserDNAttribute="false"
groupFilter="(ObjectClass=top)"
scope="Subtree" />
</providers>
</roleManager>
```

6. IIS を再起動して、SharePoint サーバの全体管理にログインします。
7. [\[アプリケーション構成の管理\]](#) タブで、[\[サイトコレクションの管理者\]](#) をクリックします。
8. LDAP ユーザをプライマリ管理者として追加し、ユーザが識別されていることを確認します。
9. LDAP ユーザ権限を持つサイト管理者として SharePoint サイトにログインします。

6.9.2 拡張 Web アプリケーションへのユーザおよびグループの追加

サイト管理者として、LDAP ユーザを拡張 Web アプリケーションに追加し、これらのユーザがログインできるようする必要があります。

拡張 Web アプリケーションにユーザおよびグループを追加するには、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. サイト管理者として拡張 Web アプリケーションにログインします。
 2. [\[サイトの設定 \] ユーザとグループ](#) を選択します。
 3. [LDAP ユーザー/グループの追加](#) ボックスで、ユーザまたはユーザグループを追加します。
 - ユーザを追加するには、ユーザ名を入力します。
 - ユーザグループを追加するには、<LdapRoleProviderName>:<GroupName> という構文を使用します。

6.9.3 LDAP ユーザとしての拡張 Web アプリケーションへのログイン

LDAP ユーザとして SharePoint 拡張 Web アプリケーションにログインする前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
- IIS 7 以上

さらに、Business Intelligence (BI) プラットフォームの Central Management Server (CMS) で LDAP 認証を有効化します。LDAP ユーザは BI ラウンチパッドにログインできる必要があります。

1. IIS マシンにログインし、SharePoint サーバの全体管理にログインします。
2. [統合認証](#)チェックボックスをオンにし、[匿名でログインする](#)チェックボックスをオフにします。
3. SharePoint ベースアプリケーションの web.config ファイルと拡張 Web アプリケーションの web.config ファイルを比較し、欠けているエントリが含まれるように拡張 Web アプリケーションの web.config ファイルを変更します。
4. InfoviewApp、InfoviewAppActions、PlatformServices、AnalyticalReporting の各フォルダを仮想フォルダに変換します。
5. 拡張 Web アプリケーションの仮想フォルダが、SharePoint ベースアプリケーション内の同じアプリケーションプールを示していることを確認します。
6. SharePoint ベースアプリケーションの SharePoint:<port>%<bin> フォルダの内容を、拡張 Web アプリケーションの ExtendedApplication:<port>%<bin> フォルダにコピーします。
7. crystalreportviewers12 という仮想フォルダを作成し、これを C:%Program Files%BusinessObjects%common%4.0%crystalreportviewers12 に指定します。

6.10 Windows AD 認証

Business Intelligence (BI) プラットフォームは、Windows セキュリティプラグインを使用した Active Directory (AD) 認証をサポートします。セキュリティプラグインは、プラットフォームが Windows にインストールされるときにデフォルトで含まれます。

Windows AD 認証のサポートにより、Microsoft AD のユーザおよびユーザグループアカウントを使用して BI プラットフォームで認証ができます。システム管理者は、BI プラットフォーム内で各ユーザやグループを設定する代わりに、既存の AD アカウントをマップすることができます。

Windows AD セキュリティプラグインを使用して、以下の認証の種類を設定できます。

- Windows AD と Kerberos の併用
- NT LAN Manager (NTLM) を使用した Windows AD

Windows AD 認証には、次の一般手順が必要です。

1. 必要なドメインコントローラリソースを設定します。
2. Windows AD 認証用のホストを準備します。
3. AD セキュリティプラグインを有効にし、AD グループをマップします。
4. 認証方法を選択します。

- Windows AD と Kerberos の併用
 - Windows AD と NTLM の併用
5. (オプション) 以下のいずれかの方法を使用して、シングルサインオン (SSO) を設定します。
- Windows AD 用 Kerberos SSO
 - Windows AD 用 NTLM SSO

6.10.1 Kerberos を使用する Windows AD の設定

Kerberos を使用する Windows AD を設定する前に、次のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. SharePoint ポータルで、Windows AD 認証を設定します。
手順については、SharePoint のドキュメントを参照してください。
 2. SharePoint software で、Web アプリケーションを作成し、[クラシックモード認証](#)を選択します。
 3. [\[認証プロバイダ\]](#) セクションで、[\[ネゴシエート \(Kerberos\)\]](#) を選択します。
 4. Business Intelligence (BI) プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で、Kerberos の Windows AD 認証を設定します。
手順については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。
 5. BI ラウンチパッドで、認証された Windows AD ユーザの認証情報を使用してログオンし、BI プラットフォームに対して Windows AD 認証が正しく設定されていることを確認します。
 6. SharePoint サーバおよびクライアントマシン用の Windows AD ドメインコントローラで、[\[任意のサービスへの委任でこのコンピュータを信頼する \(Kerberos のみ\)\]](#) を選択します。
 7. SharePoint サーバの IIS マネージャで、Integration option for SharePoint software がインストールされているサイトを選択し、[カーネルモード認証を有効にする](#) チェックボックスをオフにします。
たとえば、[▶ SharePoint サイト ▶ 認証 ▶ Windows 認証 ▶ 詳細設定](#) を選択し、[\[詳細設定\]](#) の [\[カーネルモード認証を有効にする\]](#) チェックボックスをオフにします。
 8. 以下の Integration option for SharePoint ファイルで、`authentication.visible` の値を `true` に設定します。
 - `C:\inetpub\wwwroot\wss\VirtualDirectories\80` にある `web.config` テンプレート設定ファイル (80 は SharePoint が展開されているポート)
 - `C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Web Content\SharepointApp\InfoViewApp` にある `InfoViewApp Web パーツ`
 - `C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Web Content\SharepointApp\PlatformServices` にある `SharePoint プラットフォームサービス`
 - `C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Web Content\SharepointApp\OpenDocument` にある `OpenDocument ファイル`
 9. Integration option for SharePoint software で、認証された Windows AD ユーザの認証情報を使用してログオンし、Windows AD Kerberos 認証が正しく設定されていることを確認します。
 10. [クライアントブラウザ](#)の信頼されたサイトで、[SharePoint の完全修飾ドメイン名の URL の追加](#)を選択します。

たとえば、ブラウザが Internet Explorer の場合、**ツール** > **インターネットオプション** > **セキュリティ** > **サイト** を選択します。

11. [\[SharePoint FQDN\]](#) を選択し、[\[追加\]](#) をクリックします。

6.10.2 Kerberos SSO を使用する Windows AD の設定

Kerberos SSO を使用する Windows AD を設定する前に、次のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. Integration option for SharePoint software で、認証された Windows AD ユーザの認証情報を使用してログオンし、Windows AD 認証が正しく設定されていることを確認します。
 2. Business Intelligence (BI) プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で、SSO を有効化します。
手順については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドで "SSO" を検索してください。
 3. 次の Integration option for SharePoint ファイルで、`sso.enabled` の値を `true` に、`authentication.default` の値を `secWinAD` に、`identity impersonate` の値を `true` に設定します。
 - C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Web Content\SharepointApp\InfoViewApp にある InfoViewApp Web パーツ
 - C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Web Content\SharepointApp\PlatformServices にある SharePoint プラットフォームサービス
 - C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Web Content\SharepointApp\OpenDocument にある OpenDocument ファイル
 4. SharePoint サーバで、IIS を再起動します。
 5. クライアントマシンで、認証された Windows AD ユーザの認証情報を使用してクライアントマシンにログオンし、Windows AD Kerberos SSO 認証が正しく設定されていることを確認します。
 6. ブラウザが Internet Explorer である場合は、**ツール** > **インターネットオプション** を選択し、以下の操作を実行します。
 - a. **[セキュリティ]** タブをクリックし、**[レベルのカスタマイズ]** をクリックします。
 - b. **[セキュリティ設定 - 信頼されたゾーン]** ダイアログボックスの **[設定]** で、**[ユーザ認証]** に移動します。
 - c. **[ログオン]** で、**[現在のユーザ名とパスワードで自動的にログオンする]** を選択し、**[OK]** をクリックして、**[OK]** をクリックします。ブラウザが Internet Explorer ではない場合は、この手順を省略してください。
 7. クライアントマシンから、Integration option for SharePoint をホストしているマシンの URL にアクセスします。
ユーザは、Windows AD 認証情報を使用して自動的にソフトウェアにログオンします。

関連情報

[SSO を使用した Windows AD のトラブルシューティング \[50 ページ\]](#)

6.10.3 NTLM を使用する Windows AD の設定

Windows オペレーティングシステムで IIS を使用している場合は、NTLM を Windows AD 認証に対して設定できます。

NTLM を使用する Windows AD を設定する前に、次のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. SharePoint ポータルで、Windows AD 認証を設定し、Windows AD ユーザが Integration option for SharePoint software にログオンできることを確認します。
手順については、SharePoint のドキュメントを参照してください。
 2. SharePoint ソフトウェアで、新しい Web アプリケーションを作成し、[クラシックモード認証] を選択します。
 3. [認証プロバイダ] セクションで、[NTLM] を選択します。
 4. Business Intelligence (BI) プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で、Windows AD NTLM 認証を設定します。
手順については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドで "Windows AD 認証" を検索してください。
 5. Windows AD 認証が BI プラットフォームで正しく設定していることを確認するため、認証された Windows AD ユーザの認証情報を使用してセントラル設定マネージャ (CCM) にログオンします。
 6. Integration option for SharePoint software がインストールされているマシンで、C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Web Content\SharepointApp\InfoViewApp ファイルの InfoViewApp Web パーツに対して authentication.visible の値を true に設定します。
 7. Integration option for SharePoint software で、認証された Windows AD ユーザの認証情報を使用してログオンし、設定を確認します。
ユーザは、Windows AD アカウント認証情報を使用して自動的にソフトウェアにログインします。

6.10.4 NTLM SSO を使用する Windows AD の設定

Windows オペレーティングシステムで IIS を使用している場合は、NTLM SSO を Windows AD 認証に対して設定できます。

NTLM SSO を使用する Windows AD を設定する前に、次のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. SharePoint ポータルで、Windows AD 認証を設定し、Windows AD ユーザが Integration option for SharePoint software にログオンできることを確認します。
手順については、SharePoint のドキュメントを参照してください。
 2. Business Intelligence (BI) プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で、SSO を有効化します。
手順については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。
 3. BI プラットフォームの CMC で、Windows AD 認証に対して NTLM を設定します。

手順については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドで "Windows AD 認証" を検索してください。

4. BI ラUNCHパッドで、認証された Windows AD ユーザの認証情報を使用してログオンし、BI プラットフォームに対して Windows AD 認証が正しく設定されていることを確認します。
5. 次の Integration option for SharePoint ファイルで、`sso.enabled` の値を `true` に、`authentication.default` の値を `secWinAD` に、`identity impersonate` の値を `true` に設定します。
 - C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Web Content\SharepointApp\InfoViewApp にある InfoViewApp Web パーツ
 - C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Web Content\SharepointApp\PlatformServices にある SharePoint プラットフォームサービス
 - C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Web Content\SharepointApp\OpenDocument にある OpenDocument ファイル
6. IIS を再起動します。
7. クライアントマシンで、認証された Windows AD ユーザの認証情報を使用してログオンし、BI プラットフォームに対して Windows AD 認証が正しく設定されていることを確認します。
8. ブラウザが Internet Explorer である場合は、**ツール > インターネットオプション** を選択し、以下の操作を実行します。
 - a. **[セキュリティ]** タブをクリックし、**[レベルのカスタマイズ]** をクリックします。
 - b. **[セキュリティ設定 - 信頼されたゾーン]** ダイアログボックスの **[設定]** で、**[ユーザ認証]** に移動します。
 - c. **[ログオン]** で、**[現在のユーザ名とパスワードで自動的にログオンする]** を選択し、**[OK]** をクリックして、**[OK]** をクリックします。ブラウザが Internet Explorer ではない場合は、この手順を省略してください。
9. クライアントマシンで、Integration option for SharePoint software をホストしているマシンの URL にアクセスできることを確認します。
10. Integration option for SharePoint software で、認証された Windows AD ユーザの認証情報を使用してログオンし、設定を確認します。
ユーザは、Windows AD アカウント認証情報を使用して自動的にソフトウェアにログインします。

関連情報

[SSO を使用した Windows AD のトラブルシューティング \[50 ページ\]](#)

6.10.5 SSO を使用した Windows AD のトラブルシューティング

Windows Active Directory (AD) シングルサインオン (SSO) のログオンに失敗する場合は、以下の操作を実行します。

- ブラウザの cookie を削除して、新しいブラウザウィンドウを起動し、Integration Option for SharePoint がデプロイされているマシンの URL にアクセスします。
- Business Intelligence (BI) プラットフォームの Central Management Server (CMS) でログファイルを確認します。

- 同じ Windows AD 認証の種類 (NTLM または Kerberos のいずれか、SSO 使用または未使用) が SharePoint および BI プラットフォームに設定されていることを確認します。

6.11 セキュリティとシングルサインオン

ユーザは、さまざまな種類の認証を使用して、SharePoint から Business Intelligence (BI) プラットフォームに直接ログオンできます。

シングルサインオンワークフローは、Kerberos または CA SiteMinder を使用する場合にサポートされます。

認証モード	説明
SharePoint でのクレームベース認証	<p>ユーザが SharePoint Server にログオンすると、セキュリティトークンが確認され、SharePoint へのログオンに使用されます。トークンはクレームプロバイダによって発行されます。</p> <p>SharePoint 2013 より、クレームベース認証がデフォルトの認証方法になります。</p>
BusinessObjects Enterprise 認証情報	
Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 認証	<ul style="list-style-type: none"> • LDAP インストール環境が正しく設定されている必要があります。 • ポータルユーザ名が認証システムのエイリアスと一致する必要があります。
Windows Active Directory (AD) 認証	<ul style="list-style-type: none"> • AD インストール環境が正しく設定されている必要があります。 • ポータルユーザ名が認証システムのエイリアスと一致する必要があります。

BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) での認証モードの設定については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

シングルサインオン

web.config テンプレート設定ファイルで sso.enabled の値を true に設定すると、シングルサインオン (SSO) が有効になります。例:

```
<add key="sso.enabled"
      value="true" />
```

関連情報

[SharePoint web.config テンプレート設定ファイル \[20 ページ\]](#)

6.11.1 SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint 2010 の要求に基づく認証の設定

このタスクでは、TrustedPrinciple.conf ファイルを使用し、SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint 2010 の NTLM の要求に基づく認証を設定する際に、共有シークレットをクライアントマシンに渡します。

SharePoint の要求に基づく認証を設定する前に、次の条件を満たしている必要があります。

- 全体管理を実行しているサーバにおいて、SharePoint 管理者グループのメンバーおよび Windows 管理者グループのメンバーである必要があります。
- SharePoint の前提条件がすべて満たされていることを確認します。
- 次のツールをインストールします。
 - .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
 - Microsoft SQL Server 2008
 - SharePoint 2016、SharePoint 2013、または SharePoint Server 2010

1. NTLM の要求に基づく認証を使用する SharePoint サイトを作成します。
2. ユーザが SharePoint サイトにアクセスできることを確認します。
3. BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で、Windows Active Directory (AD) プラグインを有効化し、ユーザをインポートします。

手順については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

4. ユーザが BI プラットフォームにマニュアルでログオンできることを確認します。
5. ステップ 1 で作成したサイトに integration option for SharePoint software をインストールします。
6. 以下のように、integration option for SharePoint software を SharePoint マシンにインストールします。
7. InfoViewApp Web パーツの web.config ファイルで、次のアクションを実行します。

- a. authentication.default の値を secWinAD に設定します。
- b. authentication.visible の値を true に設定します。

InfoViewApp Web パーツは、`<InstallDir>:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Web Content\SharePointApp\InfoViewApp` にあります。

8. コマンドラインに、`iisreset /noforce` と入力し、IIS を再起動します。
9. ステップ 1 で作成した integration option for SharePoint サイトに Windows AD ユーザがマニュアルでログオンできることを確認します。
10. BI プラットフォームの CMC で、次のアクションを実行します。
 - a. 信用できる認証を有効化し、web.config ファイルを使用して共有シークレットを生成します。
 - b. エイリアスを割り当て、Windows AD ユーザ名を Enterprise ユーザ名にマッピングします。

手順については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

11. 信用できる認証による SSO を使用して Windows AD ユーザが BI ラウンチパッドにログオンできることを確認します。
12. BI プラットフォームマシンから SharePoint サーバ上の `<InstallDir>:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\win64_x64` フォルダに共有シークレット (`TrustedPrinciple.conf` ファイル) をコピーします。
13. InfoViewApp Web パーツの `web.config` ファイルで、`isTrusted` の値を `true` に設定します。
14. コマンドラインに、`iisreset /noforce` と入力し、IIS を再起動します。

ユーザは、クライアントマシンから、作成した integration option for SharePoint サイトに SSO を介して自動的にログオンできます。

6.11.2 SharePoint 2013 に対するポート 1250 での Web アプリケーションの作成

SharePoint 2013 に対するポート 1250 での Web アプリケーションの作成の前に、以下の要件が満たされている必要があります。

- 全体管理を実行しているサーバにおいて、SharePoint ファーム管理者グループのメンバーおよび Windows 管理者グループのメンバーである必要があります。
 - SharePoint の前提条件がすべて満たされていることを確認します。
 - 次のツールをインストールします。
 - .NET Framework 3.5 SP1 以上
 - IIS 7 以上
 - SQL Server 2008 R2
 - SharePoint 2013
1. SharePoint サーバの全体管理の **アプリケーション構成の管理** タブで、**Web アプリケーションの管理** をクリックして、ツールバーの **新規** をクリックします。
[新しい Web アプリケーションの作成] ウィンドウが表示されます。
 2. [認証] の横の [クレームベース認証] を選択します。
 3. [IIS Web サイト] の横で次のアクションを実行します。
 - a. **新しい IIS Web サイトを作成する** を選択します。
 - b. 名前ボックスに、**SharePoint - 1250** を入力します。
 - c. ポートボックスに、**1250** を入力します。
 - d. ホストヘッダボックスに、Web アプリケーションにアクセスするために使用するホスト名を入力します。
 - e. パスボックスに、サーバの IIS Web サイトのルートフォルダへのパスを入力します。
 4. **セキュリティの構成** の横で、以下のアクションを実行します。
 - a. **匿名アクセスを許可する** で、**いいえ** を選択します。
 - b. **Secure Sockets Layer を使用する** で、**いいえ** を選択します。
 5. **クレーム認証の種類** の横で、以下のアクションを実行します。
 - a. **Windows 認証の有効化** チェックボックスをオンにします。
 - b. **統合 Windows 認証** チェックボックスをオンにし、一覧で **NTLM** を選択します。
 6. **サインイン ページの URL** の横にある **既定のサインイン ページ** を選択します。
 7. **パブリック URL** の横の **URL** ボックスに、**http://SP:1250** と入力します。

8. アプリケーション プールの横で、以下のアクションを実行します。
 - a. 新しいアプリケーション プールを作成するを選択します。
 - b. アプリケーション プール名ボックスに、**SharePoint - 1250**を入力します
 - c. このアプリケーション プールのセキュリティ アカウントを選択してくださいで、定義済みを選択し、リストでネットワーク サービスを選択します。
9. [データベース名と認証] の横で次のアクションを実行します。
 - a. データベース サーバーボックスに、**SPYSharePoint** を入力します。
 - b. データベース名ボックスに、新しい Web アプリケーションのデータベース名を入力します。
 - c. データベースの認証で、**Windows 認証 (推奨)** を選択します。
10. [OK] をクリックして Web アプリケーションを作成し、もう一度 [OK] をクリックします。

Web アプリケーションが作成され、サーバの全体管理の [Web アプリケーションの管理] ページに表示されます。

7 Integration option for SharePoint software デプロイメント

7.1 言語の追加または削除

言語を追加または削除する前に、次のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
- IIS 7 以上

1. Windows オペレーティングシステムで**コントロールパネル**を開き、次の操作のいずれかを実行します。

- Windows の新しいバージョン (Windows Server 2008 など) では、**プログラム > プログラムと機能 > SAP Integration for Microsoft SharePoint 4.1** をクリックし、**アンインストールと変更** をクリックします。
- Windows の古いバージョン (Windows Server 2003 など) では、**[プログラムの追加と削除]** をクリックし、**[Integration Option for SharePoint software]** を選択し、**[変更]** をクリックします。

[アプリケーションのメンテナンス] ページが表示されます。

2. **[変更]** をクリックし、**[次へ]** をクリックします。

3. **[言語パッケージの選択]** ページで、追加または削除する言語のチェックボックスをオンにし、**[次へ]** をクリックします。

[すべての言語] チェックボックスをオンにし、アラビア語、英語、フランス語、ドイツ語、アイスランド語、および日本語を追加または削除します。

4. **[導入オプション]** ページで、言語を導入する SharePoint サーバのチェックボックスをオンにし、**[次へ]** をクリックします。

[すべて選択] チェックボックスをオンにし、すべてのサーバに言語を導入します。

5. **次へ** をクリックし、言語の導入を開始します。

7.2 追加サイトへのソフトウェアのデプロイメント

Integration option for SharePoint software を使用可能な仮想サイトのサブセットにデプロイした場合は、残りのサイトにデプロイするようにインストールを変更できます。

ソフトウェアを追加サイトにデプロイする前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
- IIS 7 以上

1. Windows オペレーティングシステムで**コントロールパネル**を開き、次の操作のいずれかを実行します。

- Windows の新しいバージョン (Windows Server 2008 など) では、**プログラム** > **プログラムと機能** > **SAP Integration for Microsoft SharePoint 4.1** をクリックし、**アンインストールと変更** をクリックします。
- Windows の古いバージョン (Windows Server 2003 など) では、**[プログラムの追加と削除]** をクリックし、**[Integration Option for SharePoint software]** を選択し、**[変更]** をクリックします。

[アプリケーションのメンテナンス] ページが表示されます。

2. **[変更]** をクリックし、**[次へ]** をクリックします。
[導入オプション] ページが表示されます。
3. ソフトウェアをデプロイする各サイトを選択します。
すでにソフトウェアがデプロイされているサイトは使用できません。
4. **次へ** をクリックし、ソフトウェアのデプロイメントを開始します。

7.3 (オプション) Web Intelligence Web サービスのサイトへの手動デプロイメント

Integration option for SharePoint software では、SharePoint 2016 または SharePoint 2013 で Web Intelligence ドキュメントを開くために Web Intelligence Web サービスが必要です。このサービスはインストール時に新しい Web サイトにデプロイすることができます。このサービスをインストール中にサイトにデプロイしなかった場合は、手動でサイトにデプロイできます。

Web Intelligence Web サービスをサイトにデプロイする前に、Integration Option for Microsoft SharePoint software をインストールして設定します。

1. インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャで、
`<YourMachineName>\Sites\SharePoint - <PortNumber>\vti_bin\AnalyticalReporting` フォルダを右クリックし、**エクスプローラ** を選択します。
2. AnalyticalReporting フォルダ内のすべてのファイルをコピーします。
たとえば、ReportEngine.svc、ServerGateway.svc、web.config などコピーします。
3. 新しいフォルダを作成し、コピーしたファイルをその新しいフォルダに貼り付けます。
たとえば、`C:\inetpub\wwwroot\WebIntelligenceGateway` にフォルダを作成します。
4. IIS マネージャで、`<YourMachineName>\Sites\SharePoint - <IpointPortNumber>\bin` フォルダを右クリックし、**エクスプローラ** を選択します。
5. bin フォルダ全体を `C:\inetpub\wwwroot\WebIntelligenceGateway` フォルダにコピーします。
bin フォルダには、BusinessObjects.Sdk.Core.dll、BusinessObjects.Sdk.Core.Server.dll、BusinessObjects.Sdk.Core.Server.Service.dll、Microsoft.Practices.ServiceLocation.dll などが含まれます。
6. IIS マネージャで、**サイトノード** を右クリックし、**新しいサイトの追加** を選択します。
7. **Web サイトの追加** ダイアログボックスで、次のアクションを実行します。
 - a. **サイト名** ボックスで、サイトの名前を入力します。
たとえば、**WebIntelligence Gateway** と入力します。
 - b. **アプリケーション プール** ボックスで、**選択** をクリックし、Integration Option for SharePoint software がインストールされるアプリケーション プールを選択します。
 - c. **物理パス** ボックスで、ステップ 3 で作成したフォルダを参照して探します。

たとえば、フォルダは C:\inetpub\wwwroot\WebIntelligenceGateway に存在する可能性があります。

- d. **バインド**の下で、未使用のポート番号を**ポート**ボックスに入力して、ポート番号を記録し、**OK** をクリックします。

たとえば、ポート 2550 を使用します。

8. IIS マネージャで、Web Intelligence Gateway サイトを選択して、**認証**プロパティを開きます。
9. **匿名**および **Windows** 認証を有効化し、その他の種類の認証をすべて無効化します。
10. IIS マネージャで、DEWDFWADEPT394\Sites\SharePoint -
<IpointPortNumber>_layouts\AnalyticalReporting を右クリックし、**エクスプローラ**を選択します。
11. web.config ファイルを参照して開き、ファイル内で webi_gateway_port を検索し、ステップ 7d と同じポートの値に設定します。
たとえば、ステップ 7d でポート 2550 を入力した場合、ここでもポート 2550 を入力します。

これで、Web Intelligence ドキュメントを SharePoint 2016 または SharePoint 2013 のサイトで開くことができます。

7.3.1 (オプション) サイトからの Web Intelligence Web サービスの削除

サイトから Web Intelligence Web サービスを削除すると、Web Intelligence ドキュメントを SharePoint 2016 または SharePoint 2013 のサイトで表示できなくなります。

1. IIS マネージャで、Web Intelligence Web サービスを実行している WebIntelligence Gateway サイトを停止します。
2. WebIntelligence Gateway サイトを削除します。
3. サイトの WebIntelligenceGateway フォルダを探して削除します。
たとえば、C:\inetpub\wwwroot\WebIntelligenceGateway を削除します。

7.4 Integration option for SharePoint software の修復

修復プロセスでは、ファイルとオプションがデフォルト値に復元され、Integration option for SharePoint software はデフォルトの設定に復元されます。

ソフトウェアを修復する前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. Windows オペレーティングシステムで**コントロールパネル**を開き、次の操作のいずれかを実行します。
 - Windows の新しいバージョン (Windows Server 2008 など) では、**プログラム > プログラムと機能 > SAP Integration for Microsoft SharePoint 4.1** をクリックし、**アンインストールと変更**をクリックします。

- Windows の古いバージョン (Windows Server 2003 など) では、[[プログラムの追加と削除](#)] をクリックし、[[Integration Option for SharePoint software](#)] を選択し、[[変更](#)] をクリックします。
 - UNIX (Business Intelligence プラットフォームサーバインストール) で、`modifyOrRemoveProducts.sh` プログラムを実行し、Integration option for SharePoint software を選択します。
2. [[アプリケーションのメンテナンス](#)] ページで、[[修復](#)] をクリックします。
 3. [[ソフトウェアは正常にインストールされました。](#)] ページで、[[完了](#)] をクリックします。
Integration option for SharePoint software がデフォルトの設定およびデフォルト値に復元されました。

7.5 Integration option for SharePoint software の削除

Integration option for SharePoint software を削除すると、すべての Web パーツ、サンプル、およびドキュメントが仮想サーバから削除されます。Web サイト作成者およびサイト利用者が Business Intelligence (BI) プラットフォームに追加したインスタンスやコンテンツは削除されません。

ソフトウェアを削除する前に、以下のツールをインストールします。

- .NET Framework 3.5 以上
 - IIS 7 以上
1. Windows オペレーティングシステムで[コントロールパネル](#)を開き、次の操作のいずれかを実行します。
 - Windows の新しいバージョン (Windows Server 2008 など) では、[▶ プログラム ▶ プログラムと機能 ▶ SAP Integration for Microsoft SharePoint 4.1 ▶](#) をクリックし、[アンインストールと変更](#) をクリックします。
 - Windows の古いバージョン (Windows Server 2003 など) では、[[プログラムの追加と削除](#)] をクリックし、[[Integration Option for SharePoint software](#)] を選択し、[[変更](#)] をクリックします。
 - UNIX (BI プラットフォームサーバインストール) で、`modifyOrRemoveProducts.sh` プログラムを実行し、[Integration Option for Microsoft SharePoint software](#) を選択します。
 2. [アプリケーションのメンテナンス](#) ページで、[削除](#) をクリックします。
 3. プロンプトが表示されたら、[[はい](#)] をクリックし、アンインストールを確認します。
 4. [完了](#) をクリックします。

8 BI プラットフォーム設定

初めて Integration option for SharePoint をインストールするときは、BusinessObjects (BI) プラットフォーム内でオプションを設定または更新して、インストール環境を最適化する必要があります。

8.1 ユーザおよびユーザグループへの表示権限の割り当て

ユーザがレポートを開けるようにするには、そのユーザおよびユーザグループにアクセス権限を割り当てる必要があります。

ユーザは、スケジュールされたレポートと起動されたインスタンスを開くために必要な表示権限、およびリアルタイムでレポートにアクセスするためのオンデマンド表示権限が必要です。ユーザ権限の設定の詳細については、*SAP BusinessObjects Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

1. Business Intelligence (BI) プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で、[Everyone](#) というグループにすべてのユーザを追加します。
2. [Everyone](#) グループに表示権限を割り当てます。

表示権限があると、[Everyone](#) グループのすべてのユーザが、SharePoint でレポートを表示できます。

8.2 (オプション) レポート処理用の RAS の指定

ユーザが表示するレポートの処理に使用するデフォルトサーバを Business Intelligence (BI) プラットフォーム Page Server から Report Application Server (RAS) に変更できます。

デフォルトでは、レポートは BI プラットフォーム Page Server で処理されます。Page Server が使用できない場合は、RAS が使用されます。デフォルトで RAS を使用してレポートを処理するように BI プラットフォームを設定する場合、BI プラットフォームで RAS 用の新しいサーバグループを作成し、すべてのレポートでこのサーバグループを指定してから、BI プラットフォーム Page Server を停止する必要があります。

1. BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) にログインします。
2. CMC の **[オブジェクトの管理]** 領域で、オブジェクトのリンクをクリックし、オブジェクトを選択します。
3. **[処理]** タブをクリックします。
4. **[表示に使用するデフォルトのサーバ]** 領域で、次の操作のいずれかを実行します。
 - 最大数の空きリソースを持つサーバで BI プラットフォームがオブジェクトを処理する場合は、**最初に見つけた利用可能なサーバを使用する**を選択します。
 - 選択したサーバグループのサーバでのみ BI プラットフォームがオブジェクトを処理する場合は、**選択したグループに所属するサーバを優先して使用する**を選択してから、サーバグループを選択します。サーバが使用できない場合は、次に使用可能なサーバ (選択したグループに属さない場合もある) によって、オブジェクトが処理されます。
 - 選択したサーバグループのサーバでのみ BI プラットフォームがオブジェクトを処理する場合は、**選択したグループ内のサーバのみを使用する**を選択してから、サーバグループを選択します。

サーバグループのサーバが使用できない場合、処理されるオブジェクトはありません。

5. [更新](#)をクリックします。

8.3 (オプション) パラメータプロンプトの値の指定

1. Business Intelligence (BI) プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) にログインします。
2. [\[オブジェクトの管理\]](#) 領域で、パラメータプロンプトの値を指定するレポートのリンクをクリックします。
3. レポートの [\[処理\]](#) タブで、[\[パラメータ\]](#) リンクをクリックします。
4. パラメータの値列で、値を選択します。
5. [表示時にプロンプトを表示](#)を選択して、対応する Web パーツにレポートインスタンスを表示するユーザに対してプロンプトを表示します。
6. [\[送信\]](#) をクリックします。

8.4 OpenDocument リンクを使用したドキュメントのオープン

SharePoint 内でドキュメントを開くのではなく、OpenDocument リンクを使用してドキュメントを開くには、以下の手順に従います。

1. <Install Directory>¥SAP BusinessObjects¥SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0¥conf¥iPoint¥ipointconfig.xml にある ipointconfig.xml を開きます。
2. <[BusinessObjectsEnterpriseSharePointInfoViewDocumentViewerUrl](#)> フィールドで、:8080/BOE/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?sIDType=CUID&iDocID=%id%&token=%token%&lang=%lang% を /_layouts/OpenDocument/opendoc/openDocument.aspx?sKind=%type%&sIDType=CUID&iDocID=%id%&token=%token%&lang=%lang% に置換します。
3. インターネットインフォメーションサービス (IIS) をリセットするには、[▶ Windows ▶ ファイル名を指定して実行 ▶ iisreset ▶](#)を選択します。[▶ Windows ▶ コマンド プロンプト ▶ iisreset ▶](#)を選択することもできます。

9 スケジュールおよび拡大/縮小に関するベストプラクティス

同じ一般的なスケジュールおよび拡大/縮小に関する推奨事項が、Business Intelligence (BI) プラットフォームおよび Integration option for SharePoint software に適用されます。

BI プラットフォームを使用してレポートをスケジュール、処理、および実行し、プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) を使用してレポートのスケジュールプロパティを指定します。レポートのスケジュールのプロパティを定義する場合、次の点に注意します。

- レポートを定期的に更新する必要があり、すべてのユーザが同じデータにアクセスする場合は、要件ごとに実行するようにレポートをスケジュールします。
- レポートを表示するには、レポートをオンデマンドで表示するのではなく、スケジュールして実行する必要があります。スケジュールされたレポートに使用する BI プラットフォームのリソースは少なくなります。
- オンデマンド表示権限をユーザに割り当てた場合は、ユーザがレポートを最新表示すると、レポートはそのデータソースにアクセスします。
- SharePoint ポータルをデザインするときに、Integration option for SharePoint software の Web パーツ (リアルタイムビューを含む) をページの最新表示が多いサードパーティの Web パーツと組み合わせる場合は注意します。ユーザがページを最新表示すると、Web ページ上のすべてのレポートが最新表示されます。たとえば、10 秒ごとに最新表示される株価ティッカーが Web ページに含まれる場合は、この Web ページ上のすべてのレポートも 10 秒ごとに最新表示されます。

スケジュール情報については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

9.1 レポートのエクスポート

パフォーマンスを向上させるために、レポートをスケジュールするときに、エクスポートオプション (Microsoft Excel、Adobe Acrobat など) を指定します。別の形式表示オプションを選択して動的にレポートをエクスポートするユーザ要求は、プロセスとリソースに負荷がかかります。

9.2 レポートに対するデータベースログオン情報

パフォーマンスを向上させるために、Business Intelligence (BI) プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) で、レポートに対してデータベースログオン情報を指定します。指定しない場合は、ユーザは、レポートの最新表示や表示のたびに、データベースにログオンする必要があります。

9.3 ユーザに必要なレポート表示権限

パラメータが含まれているレポートを表示するには、ユーザにオンデマンド表示権限が必要です。Business Intelligence (BI) プラットフォーム Page Server を使用して、複数のレポートの概要を表示する場合は、ユーザには編集権限も必要です。

10 Crystal レポートのベストプラクティス

Crystal レポートを作成する場合、以下のことを行います。



- レポートの背景を透明にする。
- ディスプレイの解像度を最大に設定し、レポートのパーツを表示する領域を確保する。
- ユーザがツールヒントのパラメータ名と説明を参照することができるように、パラメータ名は短くし、パラメータの説明は意味のある内容にします。

Crystal レポートの作成についての詳細は、*SAP BusinessObjects Crystal Reports ユーザガイド*を参照してください。

重要免責事項および法的情報

ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
 - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
 - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

外部プラットフォームでホストされているビデオ

一部のビデオは、サードパーティのビデオホスティングプラットフォームに置かれている場合があります。SAP では、これらのプラットフォームに保存されているビデオが将来にわたって利用できると保証することはできません。また、これらのプラットフォームにホストされている、いかなる広告またはその他のコンテンツ (関連ビデオまたは同じサイトでホストされている別のビデオに移動する場合など) については、SAP の管理外であり責任を負いません。

ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

偏見のない表現

SAP は、ダイバーシティ & インクルージョンの文化を支持しています。SAP の文書では、可能な限り、文化、民族性、ジェンダー、および障がいの有無を問わず、すべての人々に対する偏見を伴わない表現を採用します。

© 2024 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱漏等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。